

KIBŌSHA TAIKWAN 觀大社望希

版出念記 成結盟聯本日全社望希
成落館望希大



行發盟聯本日全社望希

發刊の言葉

過去十二ヶ年希望社は黙々の間に方に異常なる發展を遂げた。然り世の人々は是に對して驚異の眼を見張るに至つた。然し此の事は内面的立場に在る者よりすれば當然の歸結であり、寧ろ此處に至る日の餘りに遲きを感じて居たのである。

而して過去に於けるそれは一切が準備時代であり、たゞ／＼今日あるの日の礎石を造る爲めに全力を傾注したに過ぎない。其の間外的交渉を有する事業はあつたにしても、それ等は今日に至る過程に於て其の當時の力で出來得る範圍内のものであり、已むに已まれぬ真情の流露が形に現われたと謂つべきものである。

今や各府縣聯盟確立し、全日本聯盟の結成を見、更に多年の念願たりし大希望館は落成を遂げた。昭和四年十一月十一日——世界大戰が終りを告げ、平和の曙光が累々たる屍を照した休戦記念の此の日に、日本と言う國、世界精神文明の源として後年の歴史家に讃歎せらるべき此の國に、人類愛の新しい運動が正面から打つて出た。即ち希望社の運動は此の日を以て愈々本舞臺活動の火蓋を切つたのである。茲に完全に準備時代の幕を閉じて新たなる出發をなすに當り、思い出多い過去を偲ぶ一端とし、將又更により大なる覺悟を以て邁進を期する一助たらしめんとして本輯を發刊する。

財を抛ち、時を献げ、専心此の運動を助成せられたる陣頭の勇士に取りては好箇の記念たり、新たに此の運動に参加して人類の福祉増進に協力勇往せんとするの士が、其の概要を理解する上に於て無二の侶伴たるを信ずるものである。

昭和五年二月

希望社全日本聯盟

編輯に就いて

本輯は上記發刊の趣旨に對して、十分に其の目的を達して遺憾なきものとは謂い得ない。何となれば過去十二ヶ年間に於ける希望社の足跡は餘りに廣汎に亘り、從つて其の都度撮影したる寫眞の種類も頗る多數に達して居る。而のみならず寫眞に寫されざる幾多のものが存在して居つたにも拘らず、本輯は限定されたる紙面の上に、飽く迄寫眞本位で輯録されたからである。從つて、此の全部が希望社の全體で無い。然し此の運動の總括的概観としては十分に其の使命を果して居ると信ずる。敢て『希望社大觀』と名ずけたる所以である。

本運動は今や世界的に進出するべく具體案が樹てられた。本輯の第二版はエスベラント譯付のものとして發刊し世界各國に紹介すべく計畫を進めて居る。

○
説明の假名遣は會て文部省に開かれたる臨時國語調査會決定の發音式假名遣法によつたものである。

(編輯部 佐藤勇香)

希望社の趣旨と其の實際

同志百萬整然たる陣容を整へ日本教化の第一線に立つ。
一人の力では天下を動かす。見よ、我々十年の努力！

希望社の趣旨と其の實際

同志百萬整然たる陣容を整へ日本教化の第一線に立つ。
一人の力遂に天下を動かす。見よ 黙々十年の底力！

希望社の趣旨

希望社は、宗派年齢男女職業又民族等の別なく、只皇室を中心とし、信と愛とに立脚し、人類愛に基づいた國際的而して國家的集團である。大正七年六月、現社主後藤靜香の創設したるもの、社友と稱する同志が全國津々浦々に普及し、其の數百萬を突破し、各府縣並に各郡市聯盟相提携し、全日本聯盟として統一せられ、量的にも亦質的にも日本最大の教化團體として知られて居る。



新聞雜誌の廣告を利用せず、其の社發行の月刊修養冊子は何れも店頭の販売によらず、個人より個人への紹介により、感激の波の擴がりにより、又、此の團體の實行行動によつて、今日の大を示すに至つた。底力あること實行力の偉大なることは、殆ど驚嘆に値する。過去十二箇年間は、只倫理網の組織に努め、最近愈々本舞臺に現れ、猛烈なる正面運動を開始するに至つた。

希望社の綱領

- 一、社會の倫理化…凡ての社會をして倫理的ならしむべし。
- 二、教育の生産化…凡ての教育をして生産的ならしむべし。
- 三、産業の教育化…凡ての産業をして教育的ならしむべし。

希望社の事業

以上の趣旨と綱領とを提げて立つ希望社は、其の主張よりも其の事業による無言の證明が最も雄辯に一切を裏書きする。「本會は左の事業を行う」と云う類のものでなく、悉く實行して居るものである。こゝに其の主なるものを挙げる。

神前早天修養會

日本人に敬虔の情操を養いたい日本人として只一人も反對の無いもの、又反對を許さないものは神社と皇室である。此の見地から全國民が毎月一回神前に集り、そこで共に禮拜し、共に國歌を歌い、兩陛下の萬歳を祈るのである。



此の主張は全國的のものとなつた。單なる希望社の修養會でなく國民的のもの、心ある人は誰でも賛成し進んで参加する様になつた。

- (上) 東京府聯盟主催明治神宮に於ける早天修養會
- (中) 大阪府聯盟主催にて天王寺公園に二萬の大衆を集めた大早天修養會
- (下) 豊橋工場聯盟主催早天修養會





佐世保市に於ける
早天修養會（軍人
も参加）
階級及男女年齢の
差別を超越して



此の運動は内地は勿論樺太にも
臺灣にも朝鮮にも行われる。
官幣大社樺太神社（豊原）
に於ける早天修養會
臺灣臺南市聯盟主催の早
天修養會



祈願の雑巾
日本婦人の忠誠敬神
の念の結晶とも言う
べきもの
國家の爲め、皇室の
ために祈りをこめて
作つた雑巾が斯くも
多數集る。
本社ではそれを講堂
に積んでお祓をして
全國の神社に奉納す
る。



専務講師

（前列右より）

西岡純平氏

後藤静香氏

余井トミ子氏

専務講師と各府県盟主事

本社には八名の専務講師及十四名の幾名府県盟主事
が全国各地を巡廻して講演並に講習を行なう



専務講師

(前列右より)

(後列右より)

西岡純平氏
須子信之氏
後藤静香氏
糸井トミ子氏
山崎英一氏
壽柳茂氏
國武菊太郎氏
向井熊次氏
兼吉静一氏
大月守氏(退職)

府県聯盟主事



NOZOMI
DAI 8 KAN
DAI 2 GO

TOKYO
KIBOSHIA

指導者講習會

全国各地にて音楽、幻燈、映畫等を加えた實際的に
趣味ある修養會を催し、本社にて毎月一回この指導者
講習會を開く。



光と聲

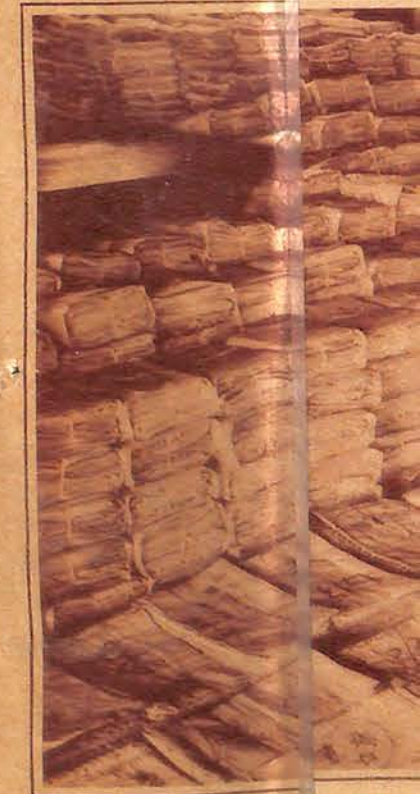
月刊修養冊子

希望——指導階級のため
のぞみ——一般青年のため
泉の花——一般婦人のため
光と聲——男學生のため
希望の日本——全日本聯盟委員の聯絡機關である

泉の花

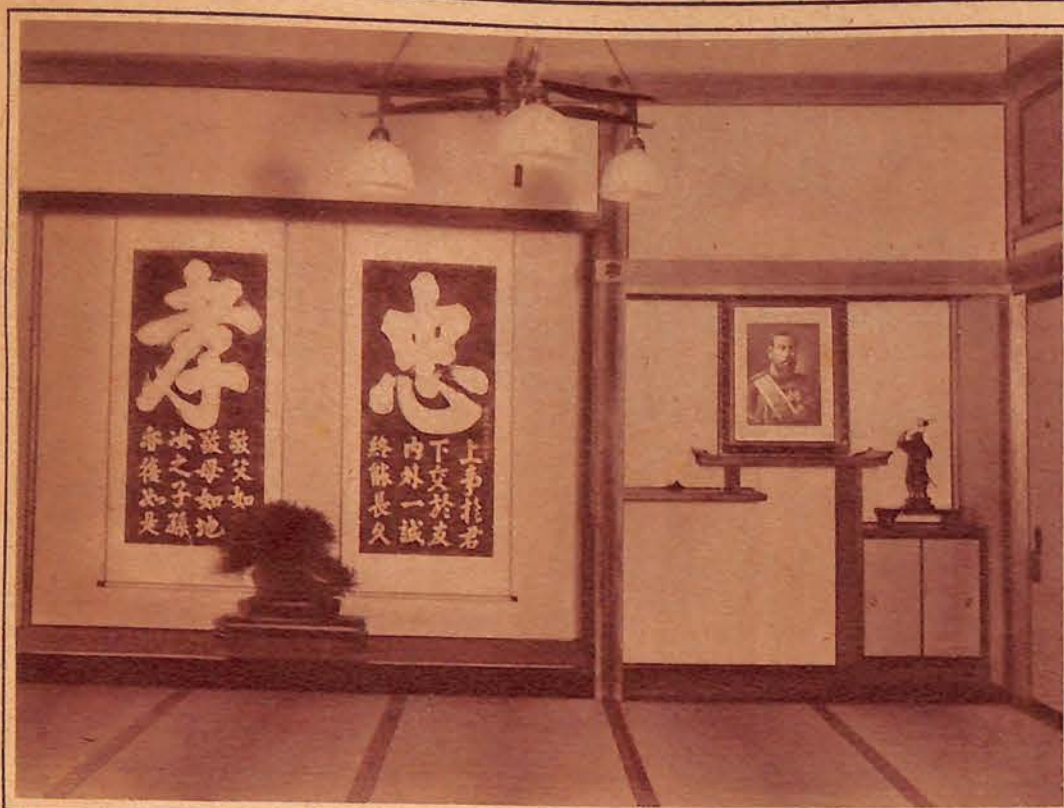


三十餘種の修養書籍を發行し成るべく廉價
にて提供し、心の慰めと勵ましとし、堅實
なる思想の養成に努める
「心の日記」大量輸送の光景



國家の爲め、皇座の
ために祈りをこめて
作つた雑巾が斯くも
多量である。
本邦ではそれを講堂
に積んでお祓をして
全國の神社に奉納す
る。

神都希望館は近畿七府縣の社友に關する一切の事務と全國各地の社友は



受付
玄関を入ると右手にあり
著書等の即賣もする



朝禮室
嘗ては久邇宮殿下御一族
(今の皇后陛下も)
秩父宮殿下、其他高貴の方々が御宿泊の由緒深き間、今は社員及宿泊者が毎朝の行事をこゝで行う



全景

神都希望館

宇治山田市の一名物、元の勅使齋館十五樓の後を買収して希望社の附屬としたもの、敷地三千坪、建坪五百六十餘坪、丘陵の傾斜面に立ち並ぶ堂々たる階段造り、宛然一大城廓の觀をなして居る。宜なり三十六萬圓の巨費と三ヶ年の日子を以て建築せられた參差たる御殿作り、仰ぎ見るものをして一驚を喫せしめずには措かぬ。

本館樓上よりの展望
山田市街を眼下に俯瞰す



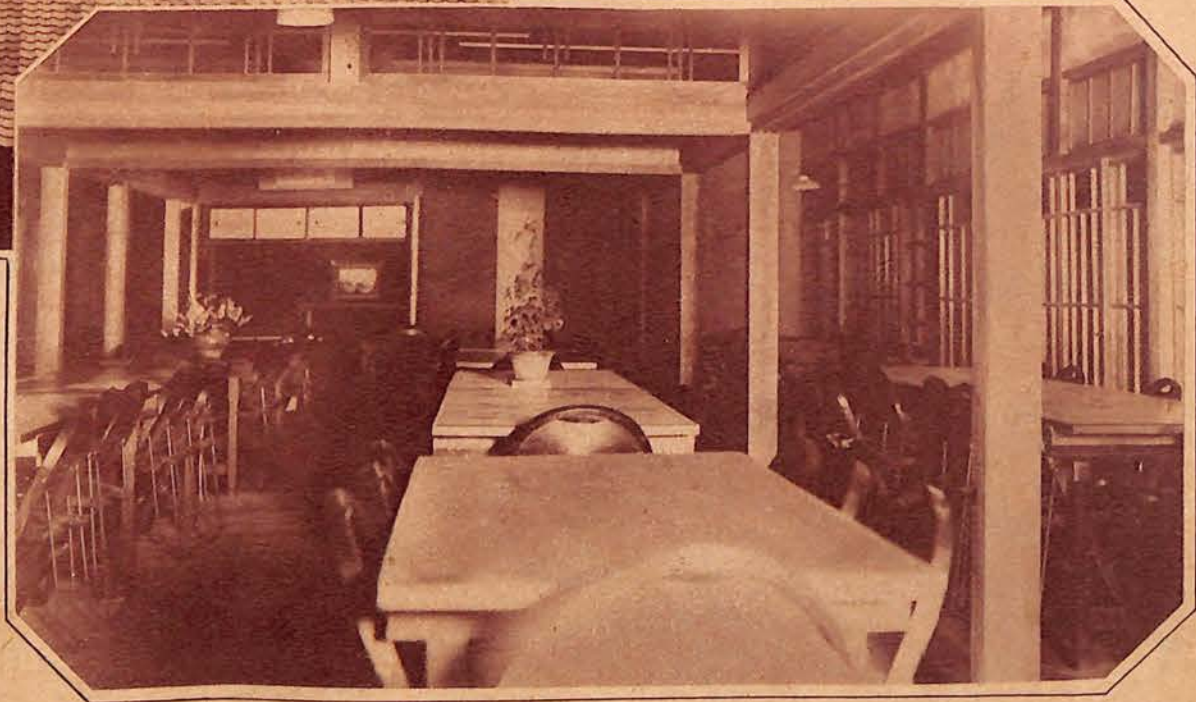
團體宿泊室

内は清楚にして外は眺



食堂

日本間の疊敷なりしものを洋式食堂に改装したるもの約貳百名の會食が出来る





集會室

大小の集會用に當てらる。氣品ある純日本間

讀書室兼應接室

典雅なる房付の贅垂れに莊重の氣漲る

神都希望館は近畿七府縣の社友に關する一切の事務と全國各地の社友は勿論社友の紹介による個人又は團體に實費宿泊の便を圖つて居る。

大英斷

神都希望館は國民の家
神都に於ける同志の家

壹泊壹圓均一斷行

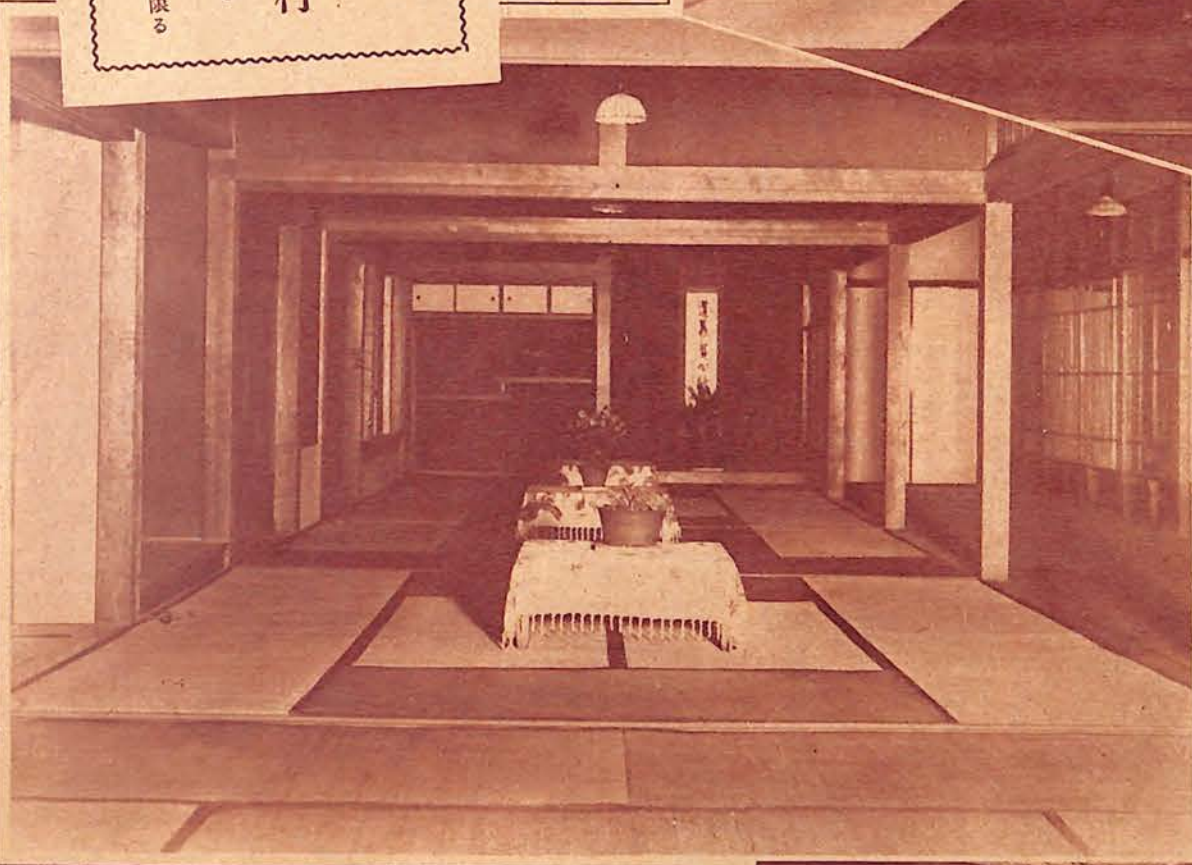
- ▽食費共（一食、二食、三食御隨意）
- ▽團體、個人凡て同様なり
- ▽社友又は社友の紹介による人々に限る
- ▽小學兒童は三食附一泊七拾錢



團體宿泊室

内は清楚にして外は眺望に富み宿泊者に大なる慰安を與う

式年遷宮祭に全國處女會代表として參列したる一同が本館に宿泊して勅使門前に記念撮影



新設の神戸希望館

兵庫縣聯盟のもの



朝禮室
嘗ては久遠宮殿下御一族
（今の皇后陛下も）
方々が御宿泊の由緒深き間、今は社員及宿泊者が毎朝の行事をこゝで行う

本館樓上よりの
山下町
眼下に俯瞰す



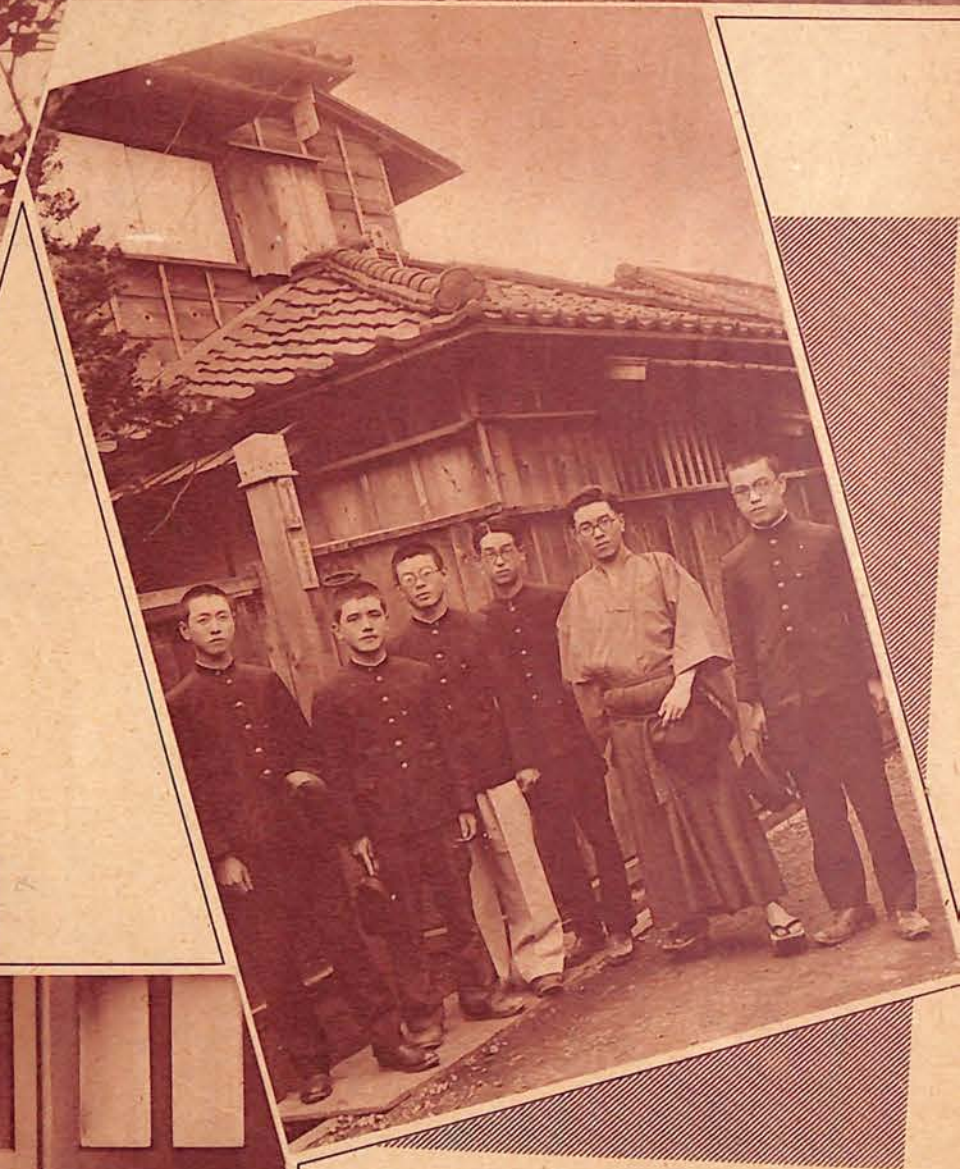
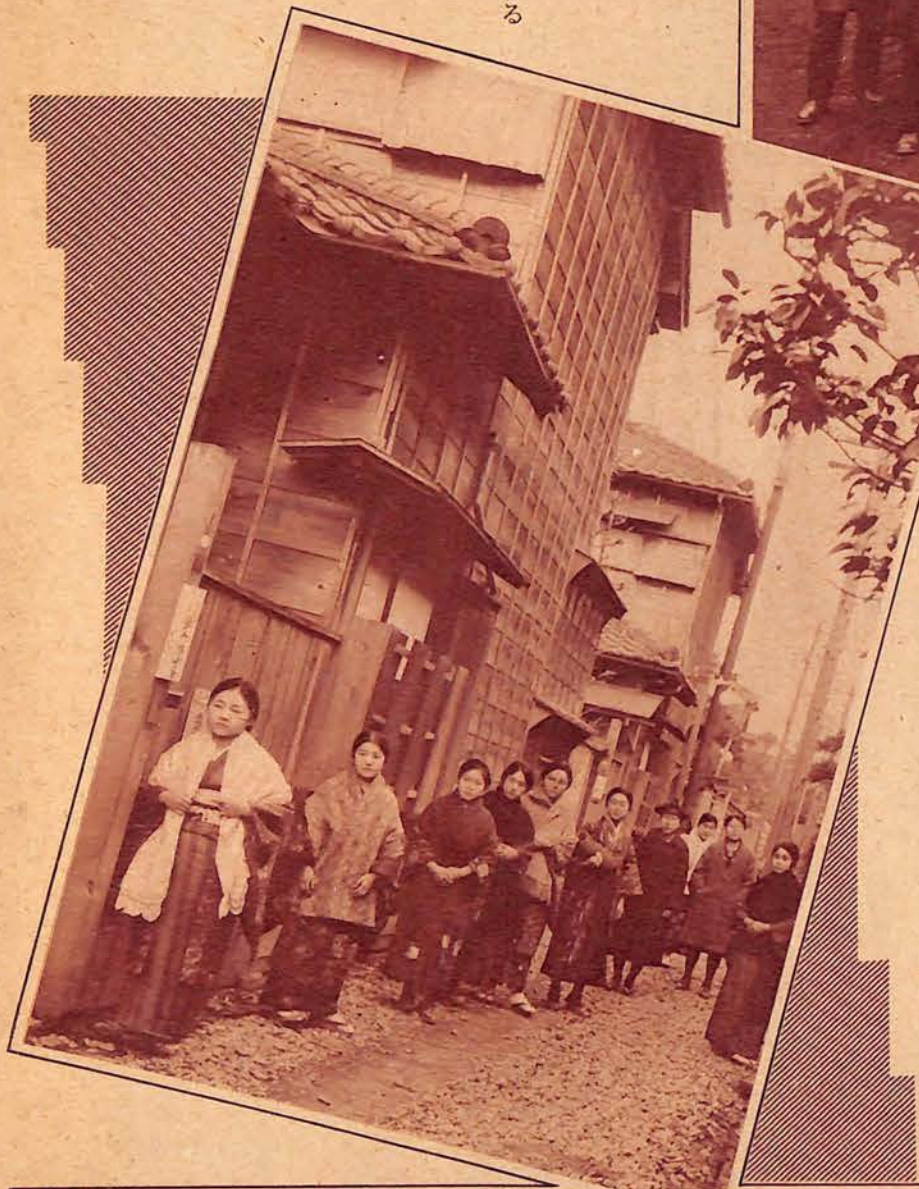
名の會食が出来る

皇室と希望社

希望寮と修省舎

男子學生のため希望寮、女學生の爲め修省舎と稱する家族的寄宿舍を設け、在京學生の修養保護に努める自炊（而も玄米常食）、洗濯、何んでも學生自身の手でやる、生活費は驚くべき低廉である本社附近に此の寄宿舍が既に幾十と出来て居る。

（寫眞は其の一例）



精勤女學生の表彰

女子中等學生が卒業の際、小學校入學以來十ヶ年以上の精勤者——皆出席者及三日以上の缺席者——を表彰するものである。昭和四年三月には二千三百十三名の多數に上つた、此の全部に對し表彰狀に榮譽賞牌や、著書を添えてやり、學校長に卒業式の當日傳達して乞うて居る。

今上陛下より柳原二位局へ更に希望社へと賜つたお鴨三羽の中一羽を綯製として光榮を永えに。
（此の外宮中より御下賜の御物は數多い）



明治大皇帝御尊像奉納運動

皇室に對し奉る國民的情操教養に資する爲めに明治天皇御正面の御尊像を各家庭に、又各小學校に奉納することを提唱し社友の申合せで各地に奉納團が出来、既に奉納されたるもの實に多數に及んだ。



皇室と希望社

震災直後に於ける罹災者唯一の學校であつた希望社の學生生徒一同（眞實の同泉橋）は皇太后陛下上山御臨幸の際に（大正二十九年九月二十日）——（病院御臨幸の際のもの）



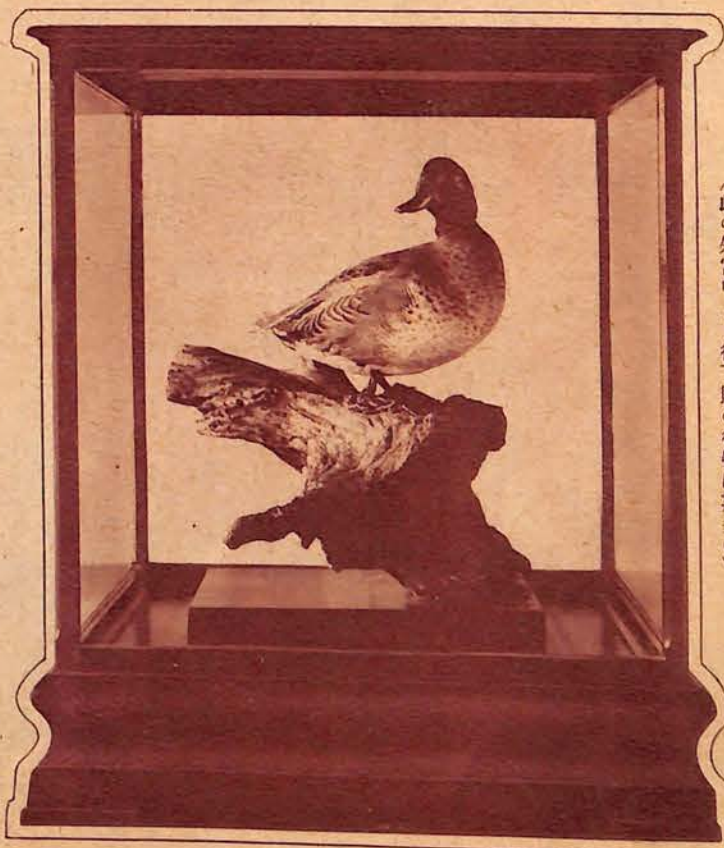
皇太后陛下——只今の皇太后陛下の謁見の御間に飾られた御花籠を頂戴

希望社
今般其社ニ於ケル
事業ヲ被聞召
御補助ノ思召ヲ
以テ金參千圓
下賜候事
昭和二年十二月三十日
宮内省

毎二年十月一日に省內宮から御下賜金頂て居る大正天皇御一周年の祭とあつた此の特別御下賜金を賜つた。此の別格の意を味察し實に勿體ない事であつた。



宮中を始め各宮殿下には希望社の刊行物は其の都度献上申上げて居るが、これは本社園藝部培養に係るチューリップを花籠として献上したるもの



今上陛下より御原二位局へ更に希望社へと賜つたお鴨三羽の中一羽を剝製として光榮を永えに。
（此の外宮中より御下賜の御物は数多い）

民族を超えて

露西亞避難民救護

赤軍に追われた露西亞人三千人が浦鹽から船で朝鮮の元山に流れ着いて、北風凍る厳冬、税關倉庫に豚の如く押し込められ食うに食無く、着るに衣なく、病むもの死ぬもの相次ぎ惨狀言語に絶した。新聞は此の事を書かず、政府は手をつけず、亞米利加は「日本に人道なし」と宣傳した。本社はこれを見るに忍びず大々的活動を開始して寄附金を募り更にビスケットや眞綿を集め、各種の日用品を買集め、日本赤十字社の手を経て彼の地に送り届けた。



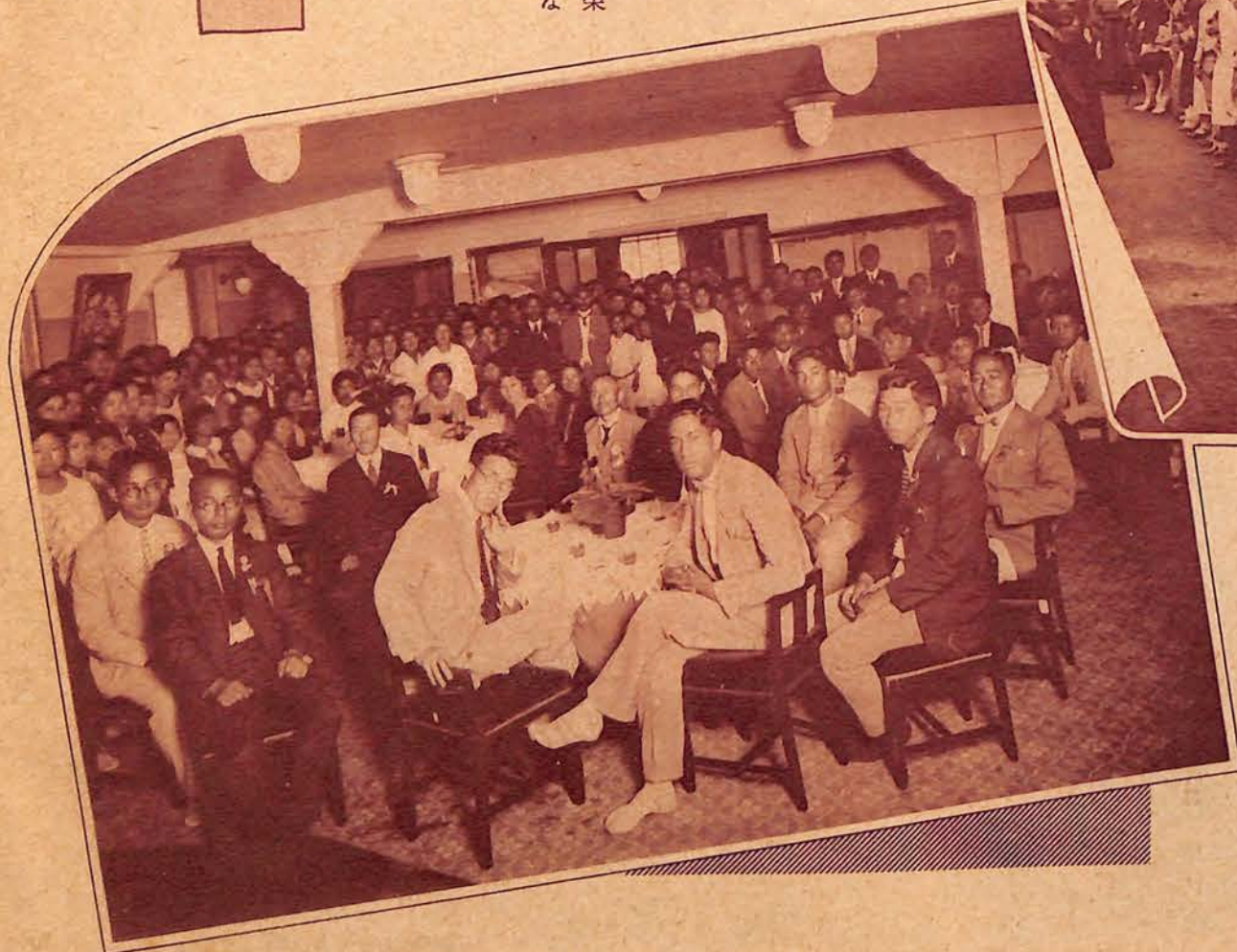
獨逸から勳章

世界大戰後獨逸は非常な窮狀に陥り食糧が缺乏し、子供等は皆營養不良になり、學校の教室や運動場でバタ／＼倒れる程になった。米國は盛んに救護を始めた東洋の君子國として誇る日本が之を傍觀する事は餘りに殘念であつた。本社は意を決して救護計畫をたて莫大な金額を送ることが出来た。其の事から此の勳章（獨逸赤十字第二等榮譽賞）を頂いた。勿論これは後藤一個の功勞ではなく、社友の方々の代表として頂いたものである。



ハイツの學園迎

或は日系米國市民、或は教育者、或は母國觀光團等が日本へ来る度毎に、本社はこれ等の團體を宿泊させ、日本内地すべてを案内し、各社友の眞心からなる歓迎を受けしめ日本人の美わしい精神の發露を見せ、悦ばせて歸國させた。



大震

大正十二年九月一日、目も當てられぬ當時の慘狀、今も尙まざ／＼と浮ぶ。本社は上野博物館に救護班本部を置いて活動した。



震災及其他の突發的事變に對する

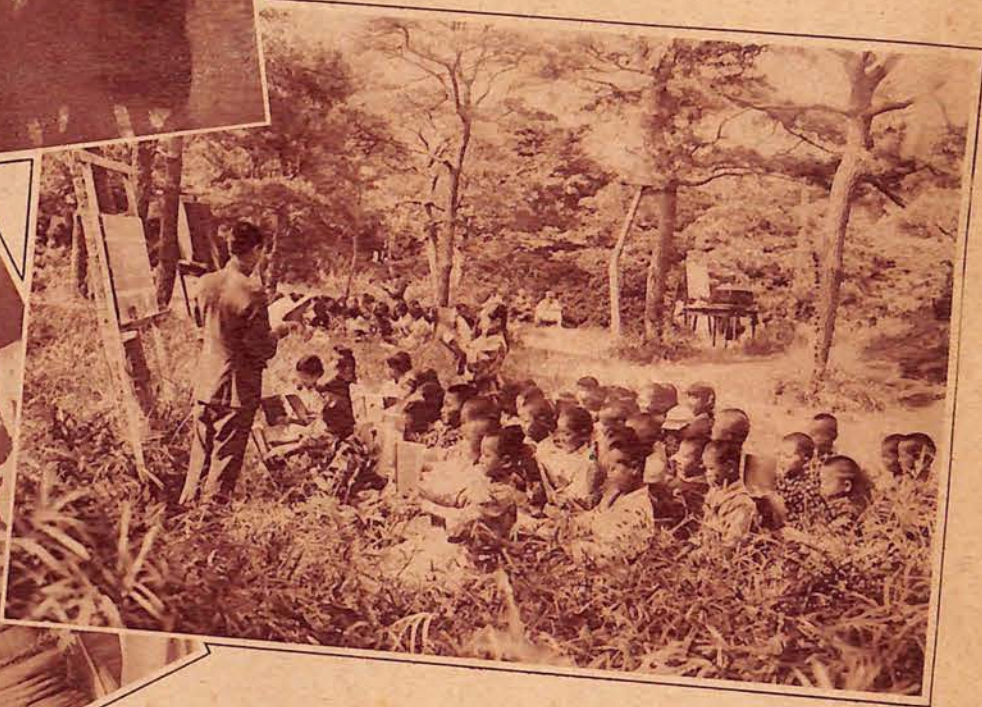


大震災當時の救護事業

大正十二年九月一日、目も當てられぬ當時の慘狀、今も尙まざ〜と浮ぶ。本社は上野博物館に救護班本部を置いて盛んに活動した。物質的配給が却て罹災者を墮落させ殊に子供の心へ乞食根性を植えつけることを知り逸早く露天學校を開き兒童教育を始めた。これが震災後帝都最初の教育であつた。

勤勞女學會

大きい子供の爲めに半日學科、半日働き、之に賃銀を與える學校も起した。寫眞は同女學會へ徳川家達公が見えられた時のもの。



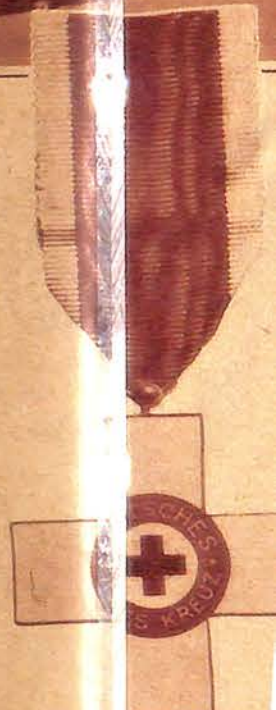
救護班本部
物をたゞやることは弊害ありと認め、實費以下で賣ることにした。
續々と列を正して品物を買ひ詰めた罹災者。



勤勞者の世話
にめたの者勤勞由自ぬたをも所きべる宿
たし練訓し愛を等彼て以を心眞け設を所泊宿



震災及其他の突發的事變に對する救護事業は數多いが此處に示すものは其一部に過ぎぬ
だん／＼寒くなつて蒲團を與えることの急務を感じた。罹災中から貧しい婦人を集め、之に縫わせ、其の働に對して賃銀を渡す様にした。
(上) 明治神宮外苑競技場にて
(下) 本社講堂にて



南朝史跡吉野山の保護

我等は日本歴史を尊重する、あの後醍醐天皇の宮跡が、荒れに荒れ、花が咲けば酔漢が藝者と手をとつて踊る場所となり、平素は心なき幼童の遊び場所として汚されて居ることを見て涙を以て一片の論文を書き誌上に、又著書「櫻か人か」の中に發表した、本社は「櫻か人か」の賣上金半額を寄附し、吉野保護會を應援して、大正九年現在の様な柵を設け、中に清浄な砂を敷き徹底的に神聖を保護することが出来る様になつた。

尙こゝに吉野寶物館を建て、あの得がたい寶物を火災から免かれる様にする。



園藝部

「花を愛する者に惡人なし」花を作ること
は閑人の閑仕事ではない。近代のせち辛
いらくした様な時代相の中に終始多忙な
生活を送る者は自然に氣分が荒み易い、う
ろおいが缺けて来る。情操が失われる。

「花を作れ、花を愛せよ」と家庭にも學校
にも病院にもいづこにも花を入れたいの考
えから本会で園藝部を設け草花の種子を分譲
して希望花壇の設置を勧める。



園藝部は印刷學校の校庭に温室を設け其の附近に
苗圃を有つ、寫眞は印刷學校の全景で右手に白く
見えるが温室



四時條亂の装いを凝らして咲き
亂れたる洋花洋菜

園藝部温室

チューリップ種球圃
今を盛りと咲き誇る



機刷印轉輪



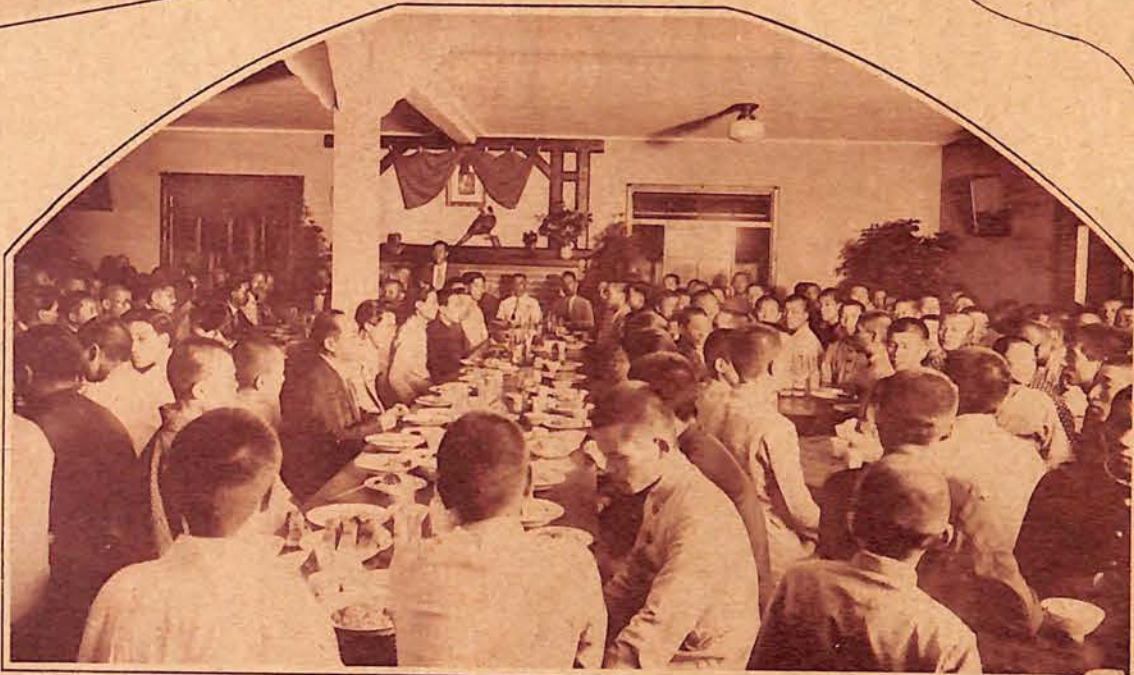
科版製



日本印刷學校

勤勞女學校と同様の精神で作られた學校である。

印刷に關する専門的技術の外に理論も授け、更に一般の中等教育を授ける、卒業後も確かな腕をもち、信用の出来る人物となつて居る。



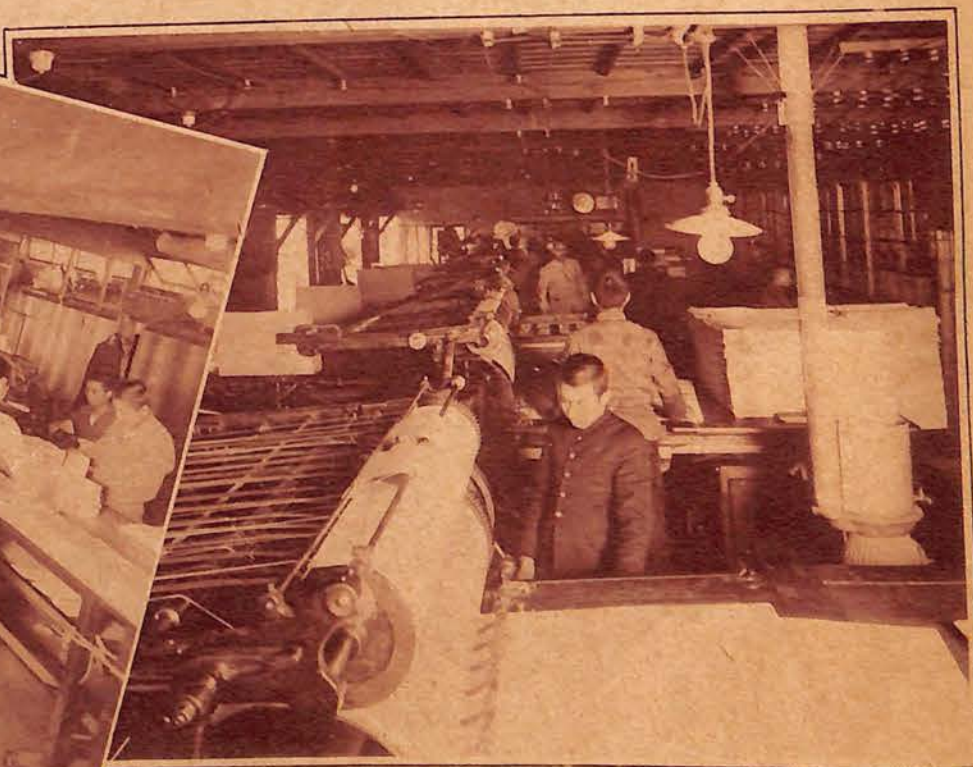
樂園るけ於に堂食

相當の學力を有し働きを好むが故に只一人の就職難もない。
希望社發行の著書一切、此の人々の力で出来上る。

科本製



機刷印台平



物を火災から免かれる様にする。

國藝部は印刷學校の校庭に温室を設け其の間に
苗圃を有つ、寫眞は印刷學校の全景で右手に白く
見えるが温室

勤勞女學校

室教科學

。るす上向んずんずが力學らかるあで創眞は強勉の等女彼
證立の能可不ばねき通をき働は育教の眞



勤勞教育の主張が具體化したものである

本科と製本科とあり、本科は午前中授業、午後働き製本科は晝間働き夜學科と定めて居る。實に伸びくと、素直に優しく育つて居る。

勤勞女學校校長岩崎吉勝氏
(校舍の玄関にて)



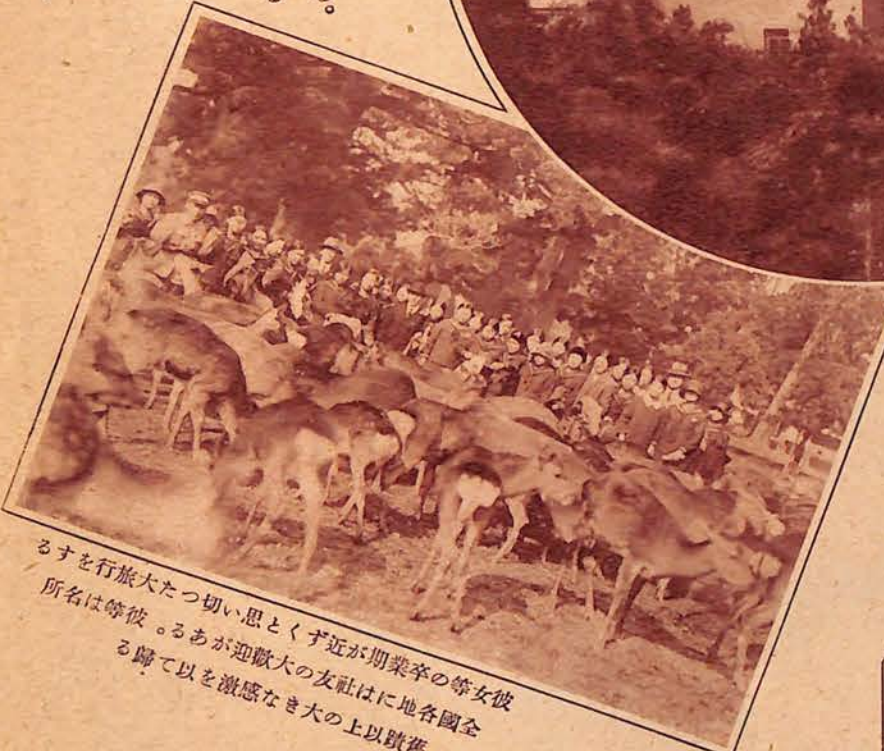
校舍全景

これは希望社の舊社屋である。現在の新館へ社務が移されると同時に此處を校舎として利用したものである。



修學旅行

(奈良春日神社
境内に鹿寄せに
興す)



るすを行旅大たつ切い思とくず近が期業卒の等女彼
所名は等彼。るあが迎歡大の友社はに地各國全
る歸て以を激感なき大の上以蹟舊

習實作製下靴



製本科生徒の製本作業

強いられた働きではなく進んで悦んでする。



帝都學生勤勞俱樂部

東京に於ける専門學校の學生中、社友のみから出來た團體である。日曜などには本社の手傳もする、近い所の相互修



多摩勤勞中學

勤勞中學の主張がだん／＼と世の中の聲となり、之が第一に實現したのは
大正天皇の御陵に近い八王子市、こゝに熱心なる社友
市川英作氏が設立者となり、市當局の賛助を得て出来
たのが多摩勤勞中學である。
生徒は殆ど半日を、農業其の他の勞働にいそむ。野
菜を車につけて賣りにも出る。



勤勞中學の生徒の勤勞姿

(前列中央は校長田弘氏)

實習圖に於ける農耕



東京府八王子市

多摩勤勞中學

顧問 後藤 靜香
名譽校長 吉田 弘
主事 市川 英作



帝都學生勤勞俱樂部

東京に於ける専門學校の學生中、社友のみから出来た團體である。日曜などには本社の手傳もする、近い所の相互修養會にも出る。殊に暑中休暇には、全國に向つて出かけ、地方青年と接觸し共に勞働もすれば、相互修養會や、合理的炊事法、合理的洗濯法の指導までする。

俱樂部員の顔合せ

俱樂部員によつて組織された勤勞班が夏期休暇中各地を巡回して指導する講習會の一例。
(朝鮮に於ける炊事講習)



校舍全景

これは希望社の舊社屋である。と同時に此處を校舍として利用したものである。



近き期に友社はに上以頭
ず近が期に友社はに上以頭
るすを行旅大つ切いと思ふ
所名は尊彼。るあが迎飲の
る歸て以を激感な



察望希たれわ現々續て於に地各國全

本社を中心として専門學校以上の學生がやつて居る自治的寄宿舎希望寮は近時全國的に其の範を及ぼして續々と各地に學生中心の希望寮が現われた。
 玄米食を實行した相互修養會を開き、自ら洗濯もする。此の事がもつと行き亘つたら學生々活の革命が起きよう。

- 1 日本最初の希望寮建設同志
 (宇都宮高農生)
- 2 長崎市第一希望寮
- 3 石川縣學生聯盟第一希望寮
 (四高學生中心)
- 4 大阪第一希望寮
- 5 廣島第一希望寮
- 6 仙臺第一希望寮





合理的炊事法と洗濯法の講習會



合理的炊事器
(一名文化こんろ)
マツチ一本新聞紙一枚で木炭が起きる。
(西岡工學士發明希望社推獎)

合理的希望の生活運動

食生活の如く

衣と生活問題

合理的目標

大阪瓦町 山口ビル 中村新吉 商店



合理的洗濯劑として本社が推獎普及しつゝある「ウオッシュ」鉛狀の粘液にして之を溫湯に溶解して用ゆ。(方法の大體は下記の通り)



合理的炊事法

實に簡單な御飯炊きの方法で玄米飯がおいしく食べられるものである、殊に頗る榮養豊富更に經濟的である。
之は日本の食糧問題と健康問題とを根本的に解決するものである。

合理的洗濯法

實に魔術の如く容易に簡單に出来る洗濯法である。今迄の様に、もむ、こする、一切が不要、洗濯劑の溶液中に短時間のふり洗いで目的を達する、而も費用は極めて低廉、婦人が半月も一月もかゝつた仕事、殆ど寝る前の半時間で出来る。



工場に於ける相互修養會
この工場で行う健全な気分を分けるにうに、い出る來學が進み、更に能
。上が、製品の向上を爲すべく、あつて。



地方に於ける相互修養會
小學校職員員の相互修養會



相互修養會眞義

相互修養會に對する深い意義を委しく記した
パンフレット

大規模の相互修養會
大會場に多數を集めて行ふ綜合的
のもの



相互修養會
産業の教育化の實際方法である青年男女のすべてに
中等學校程度の讀書力を與へ讀書趣味を養いたい讀
書中心として誰でも集ることの出来る全國民的の會
合。



臺灣にも各地で
斯く盛る行にわ



大百貨店に於ける相互修養會
大阪高島屋
店員合同の相互修養會
及役員

盲人の爲めの
月刊修養
點字雜誌
「かゝやを」

希望社各府縣聯盟主事の全生病院慰問

弱きものを顧みよとの主張から自分より不幸
なものに對して例えば長期病床の人を慰める

盲人の爲めに

全國七萬の盲人のために點字出版をする。點字の書物は盲人にとつては唯一の教材であり慰安である、然るに此の出版は儲からぬが故に甚だ少ない。希望社は此の爲めに約二十種の點字の修養書を發行し、中學程度の國語教科書十卷を出し、更に毎月「かゝやき」と稱する點字の修養雜誌を犠牲出版して居る。



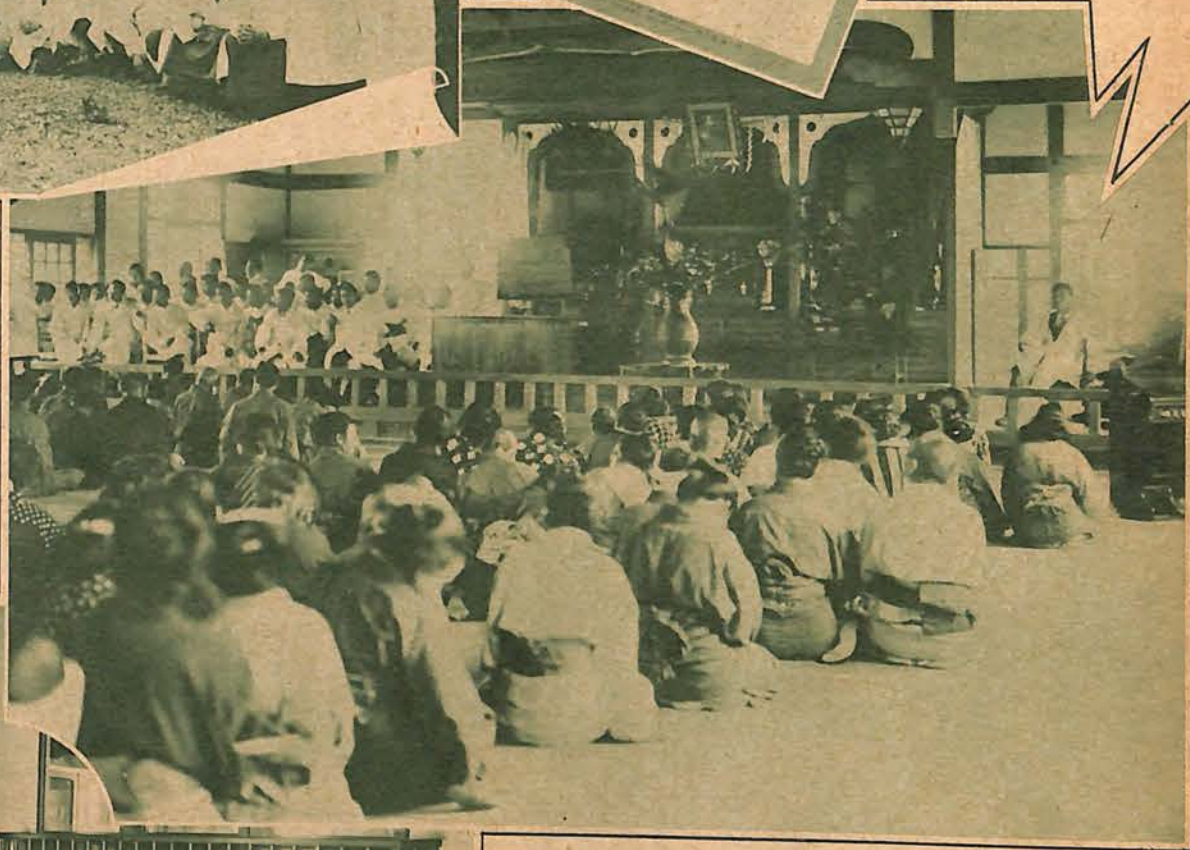
盲人の爲めの月刊修養點字雜誌「かゝやき」



癩患者の慰問

親兄弟さえ之を嫌い、そうして日本人同胞からは輕蔑され、頼るべくなく望なく生きる氣の毒な人達、此の患者が日本で五萬人、その幾らか、東京府下東村山村の全生病院で療養して居る。これを本社が毎月一回慰問して相互修養會を開く。

患者と相互修養會を開く慰問



長期の病人へ慰問袋

弱きものを顧みよとの主張から自分より不幸なものに對して例えば長期病床の人を慰める爲めに慰問袋を送る等の事を實行して居る色々な機會に病人の爲めにと全國社友から本社に送金されたもので慰問袋を作り之を日本中の淋しい病床の人に送る。

希望社各府縣聯盟主事の全生病院慰問



會養修互
能に更、み進が力學



相互修養會に對する深い意義を委しく記したパンフレット



で地
るれわ行に盛

工場に於ける相互修養會
 工場に於ける相互修養會の活動は、全員の健康と行で場工をなれこ
 るあてりかばく驚上向の品製、リ上が率
 能に更、み進が力學來出がいおるうに分氣の體全とう行で場工をなれこ



地方に於ける相互修養會
 相互修養會の員職校學小



相互修養會眞義

相互修養會に對する深い意義を委しく記した
 パンフレット

大規模の相互修養會
 大會場に多數を集めて行ふ綜合的
 のもの



相互修養會
 産業の教育化の實際方法である青年男女のすべてに
 中等學校程度の讀書力を與え讀書趣味を養いたい讀
 書中心として誰でも集ることの出来る全國民的の會
 合。



臺灣にも各地で
 新盛に行われ



大百貨店に於ける相互修養會
 大百貨店員合同の相互修養會
 (大阪高島屋)

盲人の爲めの
 月刊修養
 雜誌

希望社各府縣聯盟主事の全生病院慰問
 長年の病人へ慰問

盲人の爲めに

全國七萬の盲人のために點字出版をする。點字の書物は盲人にとつては唯一の教材であり慰安である、然るに此の出版は儲からぬが故に甚だ少ない。希望社は此の爲めに約二十種の點字の修養書を發行し、中學程度の國語教科書十巻を出し、更に毎月「かゝやき」と稱する點字の修養雜誌を犠牲出版して居る。



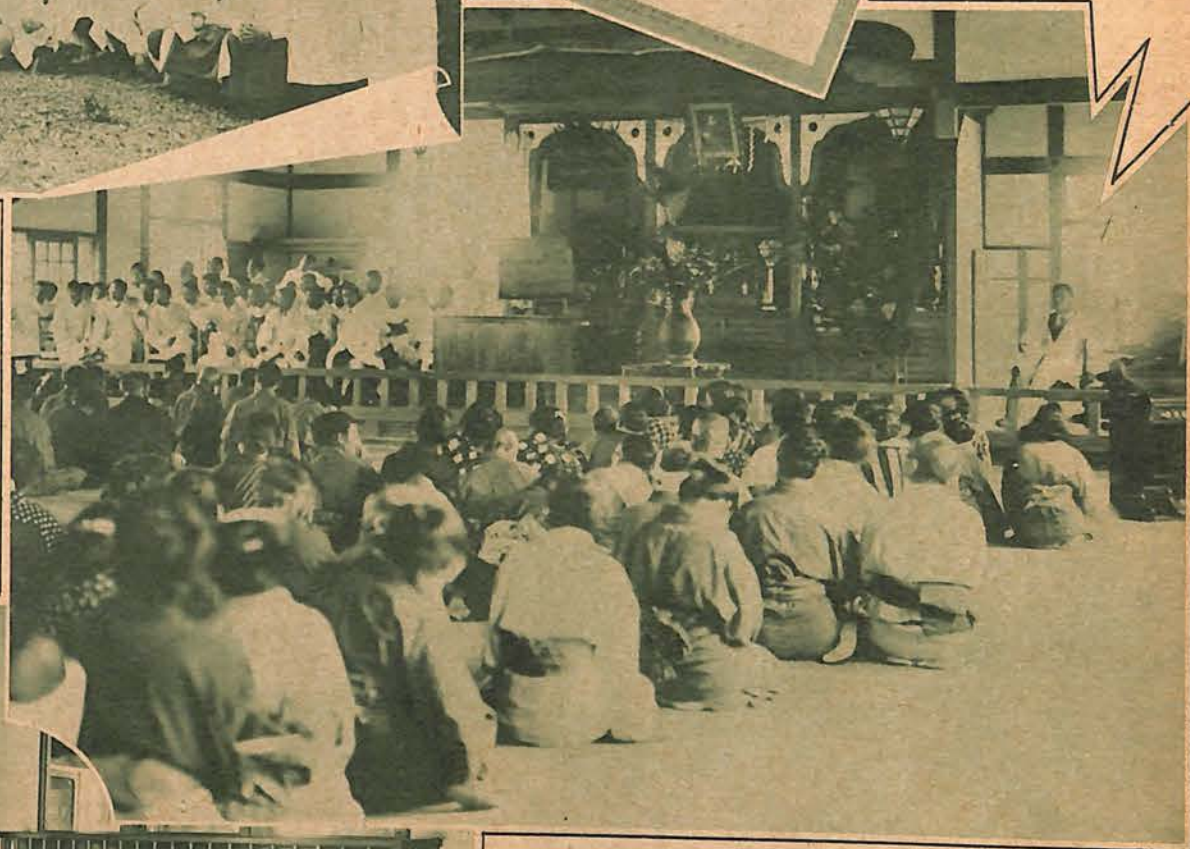
盲人の爲めの月刊修養點字雜誌「かゝやき」



癩患者の慰問

親兄弟さえ之を嫌い、そうして日本人同胞からは輕蔑され、頼るべくなく望なく生きる氣の毒な人達、此の患者が日本で五萬人、その幾らか、東京府下東村山村の全生病院で療養して居る。これを本社が毎月一回慰問して相互修養會を開く。

患者と相互修養會を開く慰問團



長期の病人へ慰問袋

弱きものを顧みよとの主張から自分より不幸なものに對して例えば長期病床の人を慰める爲めに慰問袋を送る等の事を實行して居る色々な機會に病人の爲めにと全國社友から本社に送金されたもので慰問袋を作り之を日本中の淋しい病床の人に送る。

希望社各府縣聯盟主事の全生病院慰問



會養修互相る能に更み進が力學來出が



相互修養會に對する深い意義を委しく記したパンフレット

大會場に多數を集めて行ふ綜合的のもの



で地各もるれわ行に盛く斯

國債償還

昭和四年十一月十一日
世界大戦の休戦記念日に新しく打ち出した問題は國債償還

國債償還促進同盟の提唱

本各



牢よ民國
す返を債國



朝鮮からの教育者
見學團歓迎
本社(舊館)屋上に招待して

生蕃への贈り物
「弱きものを顧みよ」此の主張は、アイヌ、生蕃、朝鮮人と民族を超えて進む。生蕃の多くは實に貧乏で着物もない。僅かにきれて體の一部を隠して居ると言う程度で大部分は土間に寝る。此の哀れむべき人々の爲めに全國社友から着物を集めて先方へ送り分配して貰つた。



生蕃と一緒にカメラに



内地視察の臺灣教育者の歓迎
これは本社がやるばかりでなく各地の社友が、其の地方々々で色々の便宜を圖る。

朝鮮からの教育者視察團を伴え東京市内を案内し宮城前に到りたる所



希望社經營のアイヌ幼稚園



本社前掲に掲げられた債償還促進部本部
香静藤後と板看の部本盟同進

國債償還促進同盟と神聖葬儀の提唱

昭和四年十一月十一

日世界大戦の休戦記

念日に新しく打ち出

した問題は國債償還

促進同盟の提唱であ

る。これは國民自身

の力によつて、自分

たちの問題を解決し

ようとゆう氣運を捲き起すのである。然

り「自分達の力で返そう」と言う力強い國民

運動が一大輿論となつて現われた。

本社は壹千圓、全社員、日本印刷學校、勤

勞女學校とそれぞれ率先献金し、全國

の各聯盟でも或は講演會に、或は

ポスターによつて國民に訴え

た。

此の反響は續々と現われ

本社へ報告されたものの

みにても貳萬七千圓を突

破した。

(昭和五年一月十日現在)

國債償還促進同盟本部

希望社

國債償還促進同盟の提唱

東京西大塚二六六希望社

後藤香

の行發社本
トツレフンバ

東京府聯盟の
宣傳ポスター

國民よ起て
全國民よ起て!!
國債六十億
經濟困難
それは日清、日露の
後より大なり
吾等は起て吾等の手に
國債を償還せん

希望社
東京府聯盟本部
東京府聯盟本部
東京府聯盟本部



民國よ記年よ本日よ國債の總額に十六億
(國債償還促進同盟本部) け動にめたす返を債國よせ約節にめたす返を債國

東京市聯盟の
國債償還
促進大講演會

神聖葬儀の提唱

一 葬式には酒類全廢の事

二 香典返しの類全廢の事

三 國債償還資金として其の節約中より
若干献納の事

以上を實行したる場合、其の遺族又は友人等より本
社弔慰部宛報告の事

一 永眠者の氏名

二 遺族家長の住所氏名

本社からは弔慰狀を呈して哀悼の意を表す

尙此の事を、其の町村の決議としたる場合、即時御
報告の事、本社にては「希望の日本」に發表して全
國の模範とする。



各地の社友が、其の地方々々で
色々の便宜を図る。

後藤靜香地方大講演會

無名青年男女が主催し而も會費を徴收しに定刻には悉く満員入場絶望の盛況に堂々聴衆、一語一語に感念の度敬と味肅嚴るさらけ言種一れ溢る
(寫眞其の一の例を示す)



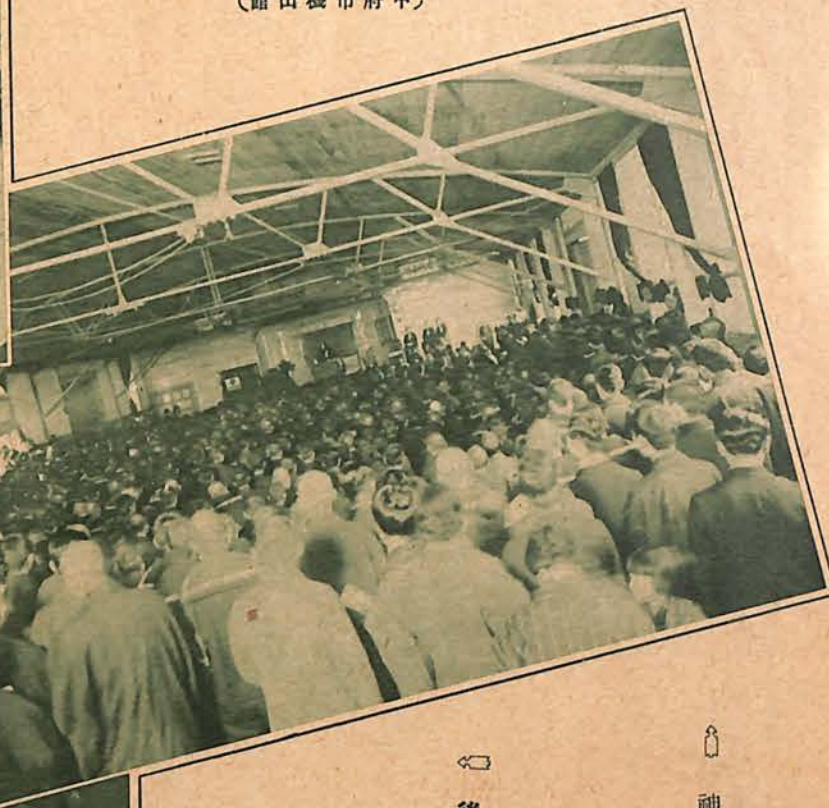
大阪府聯盟主催
(中之島中央公會堂)



山梨縣聯盟大會に
救國體策を説く
(甲府市機山館)



希望京都府完成祝賀記念講演會
(京都市公會堂にて)



後藤靜香歡迎晚餐會

各地中堅社友が中心となつて講演地で歡迎晚餐が開かれ打ち解けた歓談の一夜が過される。
これは山梨縣知事はじめ縣のお歴々が發起者となつて開かれたもの。

神奈川県聯盟主催講演會

(横須賀市の小學校にて)



地方當局の積極的應援

希望社の運動に對して中央及地方要路の當局が積極的態度を以て應援の勞を措まれぬ様に至つたことは是に感謝すべきこと



樺太長官 忍氏

白樺の官邸庭園
目北村、秘書長、縣長

問訪社本の婦流名き深解理

(前列右より)
大塚警保局長夫人
永井外務次官夫人
元女官梨木止女子女史
後藤静香
後藤工大臣夫人
小橋前文部大臣夫人
安達内務大臣夫人
(後列右より)
服部日本平民學校校長
紀本濟生會救療部長
西岡本社事務講師
岩崎勤勞女學校校長
増田實業之日本社
長及丸山警視總監
夫人は御都合にて
早くお歸り



地方當局の積極的應援

希望社の運動に對して中央及地方要路の當局が積極的態度を以て應援の勞を措まれぬ様に至つたことは定に感謝すべきことである。こゝにはその一例を示す。

大阪府知事柴田善三郎氏

毎月二回官邸を開放して相互修養會を開き各種會合には率先出席して行動を共にせらる。
(左上園内)は一月一日早朝の社友拜賀式に夫妻お揃で出席された所。

山梨縣聯盟大會
に祝辭を述ぶる
平田知事



長局産殖灣臺
氏輔文濟百

るらせ任ら自て以を使拓開の動運社望希るけに灣臺
。しべる知て以さ心熱



樺太長官
忍氏

人三、事主道海北池小りよ右てに園庭邸官る繁の樺白
。師講務專井絲は端左、官長縣、長課務學村北目

本日全社望希

日四・三十二月一十年四和昭
志同たじ参せ馳りよ地各國全



顔ニコニの者席出方地る出れ溢に頭驛田山に毎車着

景全館望希都神たれらて當に部本の會大

が者席出の人千二約がたれらめ定と所宿が館旅夫太郎次市日三と處此

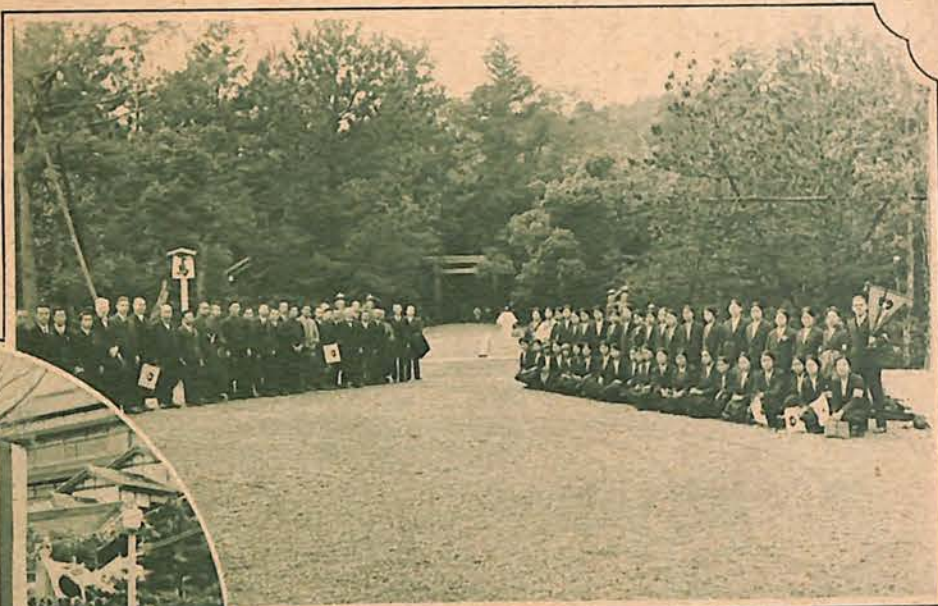
。況盛の員満てめ埋く悉な處空もに間の板もに下廊
喜歡謝感に互すせと意を由自不風窮



てい着に都神が任主方地各社本るす席列に會大
所たえ終を拜参宮外



樂園の堂食館望希都神
婦命木梨（右其）香靜藤後（端左）
將中原西（央中）



「やアしばらく」「やア」と互に
久潤を叙して歡び合う受付

續々詰めかける出席者

山田驛へ降車した出席者の一團が隊
伍を整えて神都希望館へ乗り込む所



全日本

日四・十二
志同たじ参せ



顔コニコの席出方地



樂園の堂食望希者
婦命木梨(右其 香静藤後
將中原西)



聯盟總會

(てに市田山治宇都神
つ起てつ誓に神大千貳)

全日本聯盟總會順序

村天木松會司

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 一、奏 樂……………本社吹奏團 | 一、謝 辭……………表彰希望町村 |
| 二、國歌合唱 | 二、音 樂……………獨唱原田君代 |
| 三、皇太后宮並ニ宮城遙拜 | 三、協 議……………伴奏和泉初音 |
| 四、御製朗詠 | 一、國債償還問題(百萬圓納納決議) |
| 五、開會之辭……………西原中將 | 二、標準希望町村建設 |
| 六、全日本聯盟結成式 | 一四、希望の家合唱 |
| 七、聯盟旗樹立 | 一五、奏 樂……………本社吹奏團 |
| 八、全國優良希望町村表彰 | 一六、權威朗誦 |
| 九、式 辭……………後藤靜香 | 一七、兩陛下萬歲 |
| 一〇、祝 辭……………內務文部兩大臣
其 他 | 一八、閉會之辭……………司 會 者 |

靈感滿堂に漂う

思い起す十一月二十三日、神宮皇學館の講堂、そこには全日本から参集した同志中の同志が黙々として座して居る。正面には九州聯盟主事西原中將、中央總務席にはかれ靜香が端然として着席する。其の隣席稍後方に元の高等女官梨木命婦が洋装で清淨な氣高い姿を見せる。

空氣はいやが上に緊張する。何か重大な事件が現れるもの、如く神々しい莊嚴な瞬間が刻一刻と其の尊嚴神性を加える。

聲なく音なく只絶對の信絶對の愛の默々たる一大融合がある。禮拜か、默禱か、それとも天地の神靈一堂に集り人間の精と相和して無聲の交響樂を奏して居るのか。

司會者中將の眼からハラ／＼と涙が落ちる。そこに碩學の博士あり、そこに高官あり、そこに大學生あり、そこに實業家あり、そこに校長あり、無名の青年勞働者あり、母あり妻あり少女あり、而も悉く純情の精。未だ一語無きに感激の涙禁する能わざるもの中將のみでは無い。ハンカチがそこにもこゝにも動く。

國歌遙拜朗誦と型の如く行事は進む。其

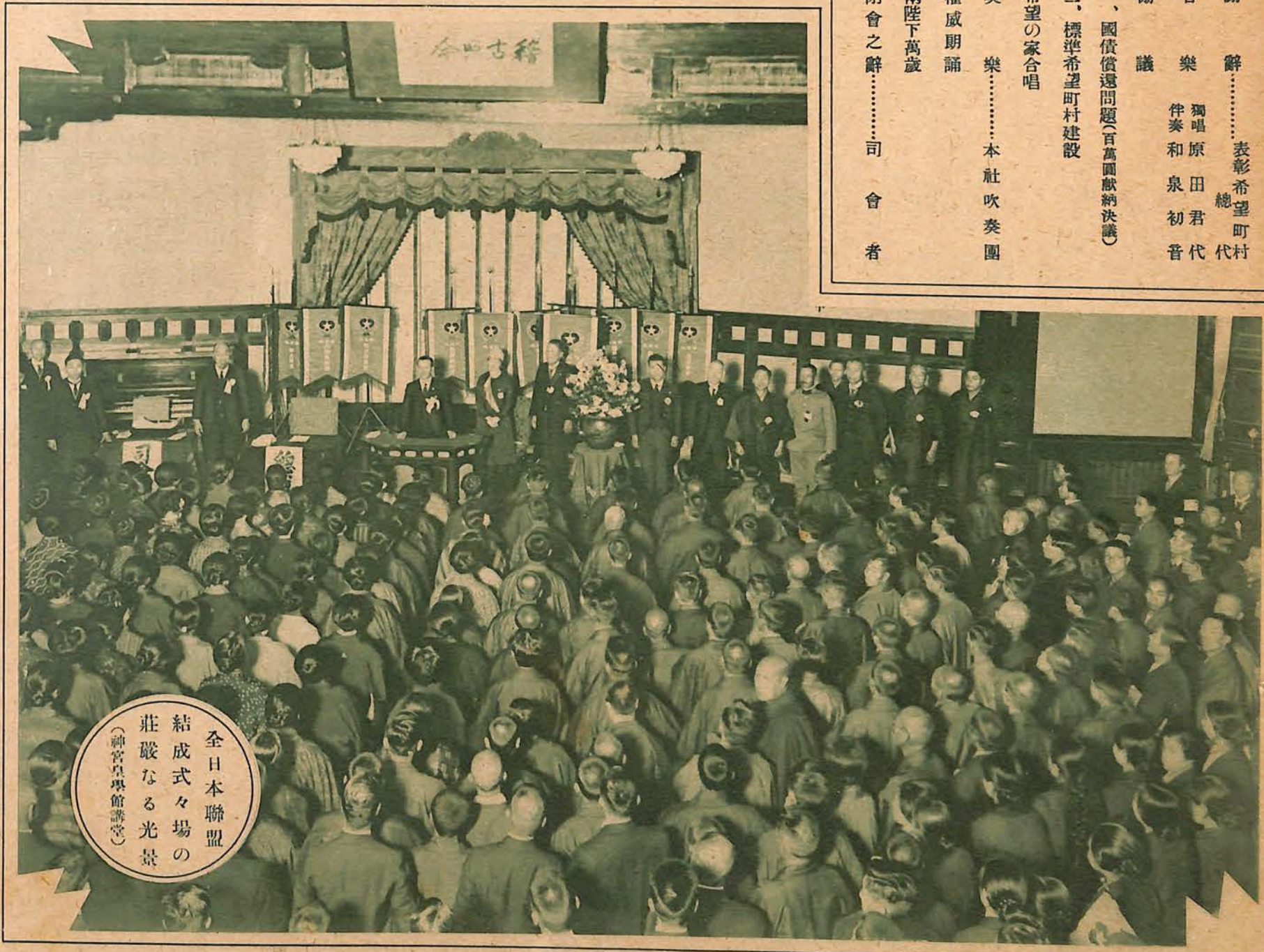
の型の中に、一つとして型ならぬ發洩たる命の動きを見る。只一舉手、只一語、それが無限の意義をもち絶大の感動を與える。各府縣聯盟正式に承認せられ愈々希望社全日本聯盟の結成を見る。正に皇紀二五八九年十一月二十三日午後二時四十分也。『日本よ記憶せよ、世界よ記憶せよ、人類史を綴る歴史家よ記憶せよ。』是れ實に僞らざる二千同志の實感であつた。

不遜なる自惚なり空想なり夢想なり——斯く否定せんと我が心を叱責しながら、猶信じて動かざる實感の、溢れて湧いて抑のべからざるを認識する如何に謙遜するも、此の信を偽るに忍びざる也。

優良村表彰あり。翌日の早天修養會、續いて大講演會、最後の内宮參拜、感銘深き解散式。今や一切が只貴き神祕の雲に包まれ、心胸深く刻まれたる印象永遠に消ゆべくもあらず。

感謝すべき哉、十有二年の努力遂に此の礎石を作る。年頭に當り覺悟更に新なり。百萬同志と共に先頭に立ち皇國の大使命途行を期せんとす。

我等に富なく力なく位なし。只献けきつた、命をもつ昭和五年よ、お前の中に只此の命を投げる。天地の加護と八千萬同胞の協力とを祈る。



全日本聯盟
結成式々場の
莊嚴なる光景
(神宮皇學館講堂)

全日本の精鋭二千正に感激の高調 神都に於ける早天修養會の實況

順序

司會 後藤靜香

一、集合

引率者 (希望館) 川中善吉
(三日市旅館) 浅尾佐兵衛
(外宮前) 西川正己

二、行進

(指揮) 川中善吉
平林博

順位

高張 修養會旗 各府縣聯盟旗 樂隊
日本聯盟旗
ラッパ 會衆 男女
高張 各旗 (東京、大阪、京都、三重各學生聯盟) ラッパ (三重縣學生聯盟)

三、修祓 (一ノ鳥居前)

四、參拜 (全員板垣御門前に整列一齊參拜)

五、行進 樂隊 ラッパ

六、整列 (微古館前)

七、國歌 合唱……伴奏 本社奏樂團

八、內宮 (右向) 並ニ宮城遙拜 (正面)

九、權威朗誦

一〇、講話……後藤靜香

二、兩陛下萬歲

三、行進 (休憩)

三、行進 神都公會堂へ

十一月二十四日午前四時整々たる太鼓の音に全員一齊起床、悦びと輝きに満ちた二千の大衆が五時三十分を合圖に神都希望館前と三日市旅館前に勢揃いをする。學生を旗手としたる聯盟旗、高張提灯を先頭に山田中學生の喇叭隊、本社音楽隊、司會者後藤靜香、西原中將、梨木女史之に續き男子隊、女子隊黙々として内宮に向つて進發する。



所るす出を域神てえ終を拜參宮外

盟聯くめらき鎗銀を路道幸御るむこち立露曉
へ館古微りよ宮外てしに頭先を旗



ら語亦人すら語てし默杉老、前の域神宮外るため初け明く白のほ
き湧てしと然油念の虔敬嚴莊るざらかべう言種一りよ底胸たす
ゆ覺をるす出



先頭が將に微古館に到着した所

の隊樂音とき響の叭喇るす舞鼓を氣上、々肅只を路道幸御
千二に中の々默くなのもるす發を語一只外のチーマるす奏
るす進直が衆大の



大御心

むらぎもの心のかぎりつくしてむ

わが思ふことなるもならずも

よきをとりあしきをすて、外國に



日本

祖國日本！

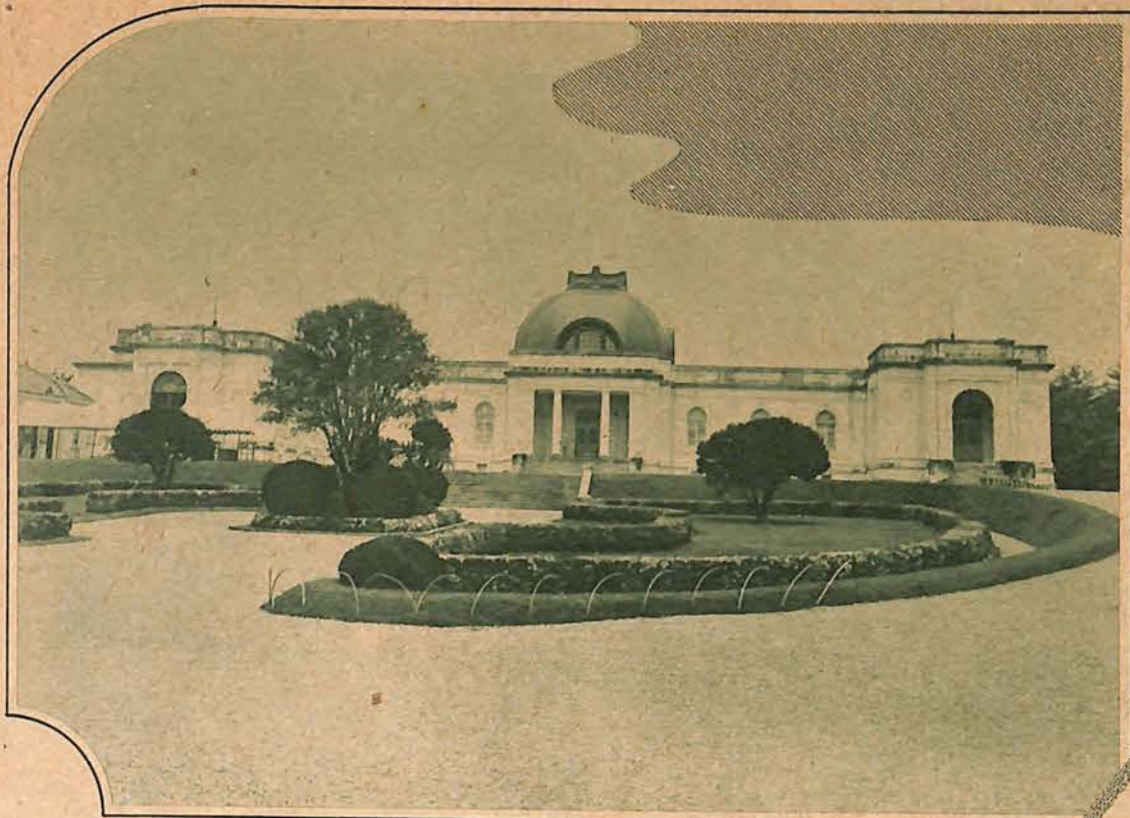
可愛のくなくてどうしよう。

血族の國日本！

團結しなくてどうしよう。

途中から契りを結んだ兄弟も

愛の念で、血を分ちあつた同胞。



(上) 徴古館

早天修養舎の行事を此の前庭で行う

(下) 神宮皇學館講堂

全日本聯盟總會々場

大御心

むらぎもの心のかぎりつくしてむ
わが思ふことなるもならずも
よきをとりあしきをすてゝ外國に
おとらぬ國となすよしもがな

朗 誦

怒濤の押し寄せ
るが如く而も力
あるリズムが朝
の空気を揺がす



日本

祖國日本！
可愛くなくてどうしよう。
血族の國日本！
團結しなくてどうしよう。
途中から契りを結んだ兄弟も
愛の念で、血に血を分けあつた同胞。
懐しくなくてどうしよう。
東西の文化の花咲き出する
天壤無窮の君在す國
旭日はじめに照らす國
可愛くなくてどうしよう。

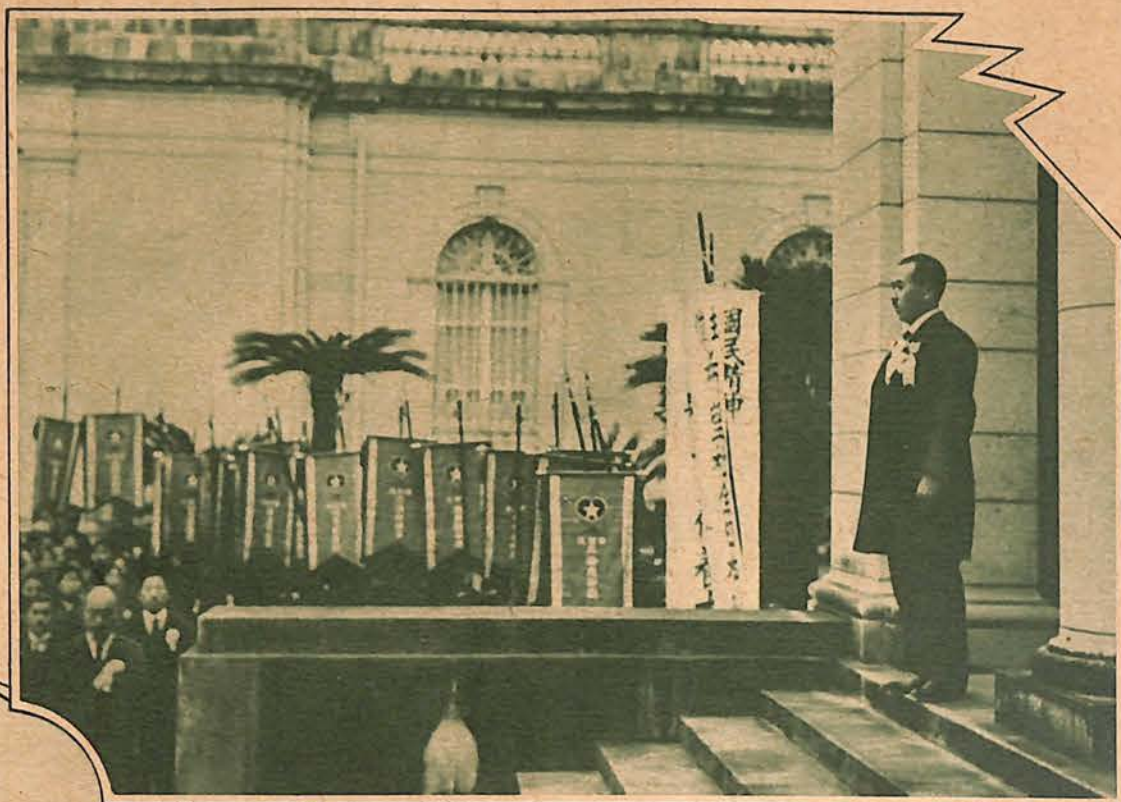
の喇叭隊、本社、音楽隊、司
會者後藤靜香、西原中將、梨木
女史之に續き男子隊、女子隊黙々
として内宮に向つて進發する。



所るす出な

盟聯くめらき
へ





大御心朗詠權威朗誦を終りて清められ高められたる幾千の心霊が鳴りを鎮めて師を仰ぐ、彼の口を衝いて出するは是れ天の聲、白き石造の洋館にこだまして言々人の肺腑にせまる、神都の山川草木も亦耳をそばだてるか環境静まりて聲なく、おゝ大丈夫の頬を傳うは涙！ たゞ涙也

(上) 講話に移る直前の後藤静香
(下) 感激の高調に達せる全代表者



行詰りの現代日本に此の方法を示す

— 神都早天修養會に於ける後藤静香講話 —

日本には昔から神社に参ることが行われる又神様のお祭りをすることが行われる。國家の政治を行うこととお祭りをすることは同一の事であるとした「政治」即ち「マツリゴト」である。

神社に参る者は今日に至る迄益々盛んである、明治神宮の参拜者は今年の一月元旦に於て昨年の二倍であった。無論大神宮其の他の神社も同様、國民思想がどうなつても國民の心持が神社から離れることは絶対にない。理窟は言つても引き離せぬ。是迄神社に参ることは五穀豊穡や病氣平癒を祈願すると言つた様な考え方であつたのが近頃は國家の爲めに人物を引き上げる爲めに敬虔の念を以て祈願を籠めると言う様に人間の心持が次第に淨化され神化されて來たことは疑なき事實である。

日本には昔から早起を奨励した。此の思想が地方的に早起會となつて生れたが其の方法が頗る拙いのは遺憾である。集つてお宮の掃除をするとか断足をやらせるとか言う繼續せぬ條件の下に行われて居る。最初は珍らしさに續きもするが遂には特志家の特殊な仕事に化して仕舞つたことは誠に惜しいことである。

更に今日残念なことに神社参拜と言うことが個々別々の行事になつて居ることである。明治神宮には幾十萬の人々が参拜するが統一したる動きがない。伊勢大神宮に於ける正月三日間の参拜者は龜山驛あたりから押し潰されそうな夥しい数に上つて居るが個人々々に何等の聯絡が無い。これは神社参拜の大缺陷である。

神社に参る心持と更に早起の氣分を統合して全體的なものとし行い易き條件を附した希望社の早天修養會が今日成功して居る所以は何れの人々の心の中にもあるものを引出して形を整えたからである。

此の國を何とかしたいと言う愛國の心持は何人にもある最近の新聞記事に現れる幾多の不祥事件には誰もが不安を持つて居るが、如何にすれば此の國をよくする事が出来るかと言う具體的方法には皆苦しんで居る。

然るに今や其の方法が茲に現れた。全國民が老幼男女揃つて月に一回早天修養會を行う。其の事の中にあらゆる不祥が解決する。教師と生徒が共に之を行えば學校騒動が無くなる。地主と小作人と共に之を行えば小作争議は絶滅する。工場長も支配階級も労働者も一團となつて行えば不健全なる思想は影を没する。これは断じて行われることである。これを行うことによつて全國を統一し打つて一團とした國民的正義が現れたと言う實感が湧く。愛國心は誰にもある、それを團體として形に現わすのである。

我々は方法なき現代日本に此の行方を示す。

産業の組織を改め能率を向上し、平和を齎し政治を改善する爲めには内閣諸公、代議士のすべてが毎月一回午前六時に神社に集つて早天修養會をやつて見よ、縣知事が縣民と共に午前六時に此の事を行つて見よ、不健全な政治は自ら影をひそめるであらう。

我々は此の事によつて日本は救われると信ずる。

今日茲に全日本聯盟の總會が開かれ神聖なる伊勢に全日本的の第一回の行事を爲し得ることは何たる光榮であり、何たる幸福であらうか。此の事は永遠に續くのである。日本に永遠なる此の會に全日本の代表的人物として今茲に嚴肅なる氣分を共にすることの運命を持つたお互は實に幸福である。我々は此の事を全國の各町村津々浦々に敢て行わしめると言う。何人も當然なるが故に、全國民を統合したる一大運動を捲き起さうと言うのである。

一府縣を背負つて参加したる各位によつて行われた意義深き今日の集りは天より命ぜられたる使命によるものと自覺してお互に進みたいものである。(編輯者速記)

伊勢の神風に初るしをした聯盟旗

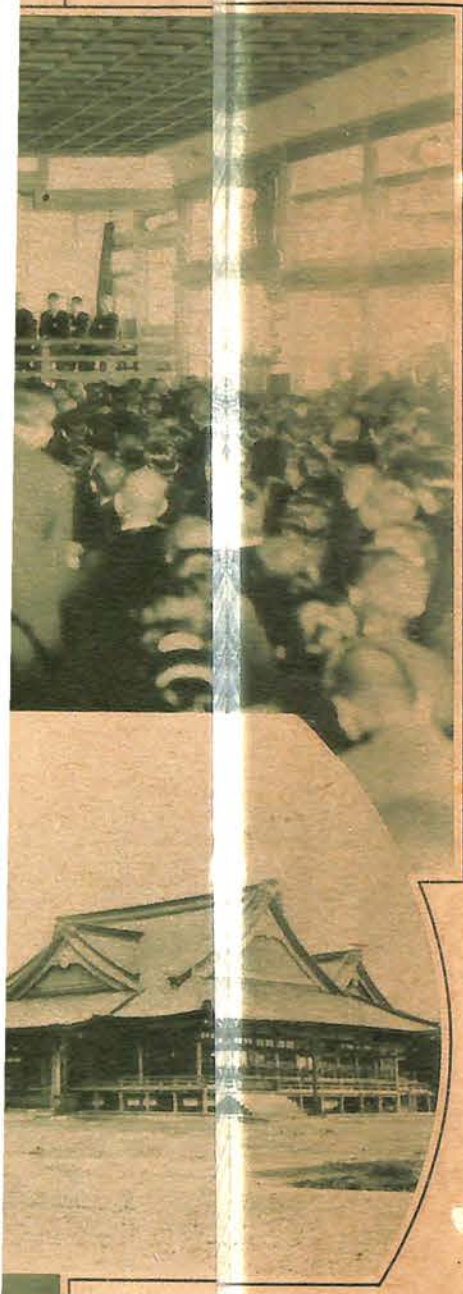
旗地を用いて剛健の氣を現わし上に希望社のマークを入れた聯盟の名稱を書き込んだ實に勢のいゝもの

昭和四年十一月二十四日未明歴史的の大早天修養會に初おろしをして伊勢の神風に洗禮を受く。

(其下) 優良希望村優勝旗
(其右) 全日本聯盟旗
(其他) 各府縣聯盟旗及小旗

昭和四年十一月二十四日午前十時
早天修養會を終れる大家は神都公會
堂の内部を埋めて

「幸ひ二重の喜宴の覺悟」
と題する師の二時間に亘る大抱負を
傾聴した。



昭和四年十一月二十四日午前十時
早天修養會を終れる大衆は神都公會
堂の内部を埋めて
「時局に起つ吾等の覺悟」
と題する師の二時間に亘る大抱負を
傾聴した。

教化動員

修養大講演會

順序

司會 淺尾佐兵衛

一、奏 樂……本社吹奏團
レコード

二、開會の辭 小池 九一

三、國歌合唱

四、皇大神宮並ニ宮城遙拜

五、御製朗詠

六、權威朗誦

七、講 演……後 藤 靜 香
「時局に起つ吾等の覺悟」

八、本社事務講師紹介

九、音 樂

獨唱 原田 君代
伴奏 和泉 初音

十、映 畫

「光は漂う」

「新なるもの生れたり」

説明 松木 天村

二、希望の家合唱

三、奏 樂……本社吹奏團

三、權威朗誦……後 藤 靜 香

四、兩陛下萬歲……一

二、閉會の辭……司 會 者



神都大會の奇蹟

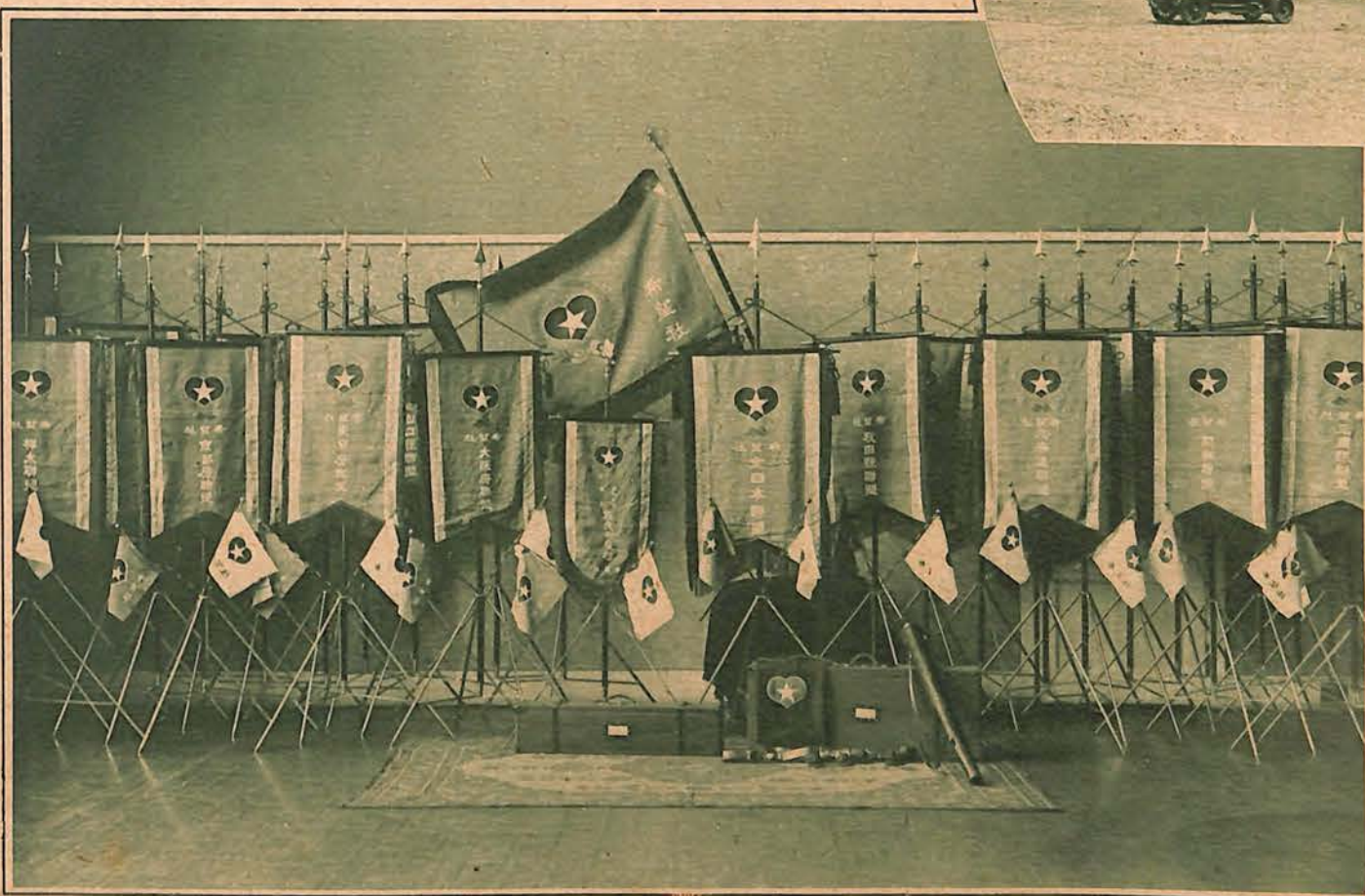
後藤 靜香

○ 樺太から、臺灣から、朝鮮から、
滿洲から、勿論内地各縣から集ま
った。此の事實既に奇蹟では無い
か。

○ 誰からも命令されぬ。来なければ
ならない義務も無い。
それにも拘らず、自分の旅費で、
更に會費まで納めて出席する。
今の世に、何の會合でこんな事が
出来ようか。
○ 神都で開かれた全日本聯盟の總會
を見ただけでも日本は頼もしい、
日本人は、何としても偉い。

講演會場

神都公會堂の全景



伊勢の神風に初きしをした聯盟旗

麻地を用いて剛健の氣を現わし上に希望社のマークを入
れ聯盟の名稱を書き込んだ實に勢のいゝもの
昭和四年十一月二十四日未明歴史的大早天修養會に初
おろしをして伊勢の神風に洗禮を受く。

(中央) 希望社の社旗
(其下) 優良希望村優勝旗
(其右) 全日本聯盟旗
(其他) 各府縣聯盟旗及小旗

此の國を何とかしたいと言ふ愛國
の心持は何人にもある最近の新聞記
事に現われる幾多の不祥事件には誰
もが不安を持つて居るが、如何にす

一、所屬を定めて一歩一歩進めよう
によつて行われたる意義深き今日の
集りは天より命ぜられたる使命によ
るものと自覺してお互に進みたいも
のである。(編輯者追記)

希望町村

健良

卷之六

表彰狀

古山村

本聯盟第一回總會ニ於テ表彰ノ
優良村中特ニ其實績顯著ナルヲ
認メ優勝旗ヲ贈呈ス 爾今益々
奮勵以テ最高ノ榮譽ニ背カザラン
コトヲ望ム

昭和四年十一月二十三日

希望社全日本聯盟



表彰狀

安田村

協同一致 希望社ノ趣旨ヲ普及シ
其ノ實現ニ努メ 社會教化ノ實績
顯著ナルモノアリ 本聯盟第一回
總會ニ際シ 優良村トシテ表彰シ
別紙目錄ノ金品ヲ贈呈ス 爾今
益ノ内容ヲ充實シ 榮譽ヲ全フセラ
レムコトヲ望ム

昭和四年十一月二十三日

希望社全日本聯盟



查定標準

- 一、神前早天修養會の實行
 - 二、部落單位相互修養會の實行
 - 三、町村當局及學校職員の參加
- 社友として行動を共にす——

五、希望社の運動が町村に、又個人に與えたる影響

以上の五點から見て優良なる成績を示すもの一府縣三箇町村宛府縣聯盟委員より選定報告されたるものに付、本社にて最後の詮衡をなしたる結果下記町村を査定して之を表彰した。

但し現在に於て各條項悉くが完全に優秀ならずとも將來に於て伸び得る素質充分なりと認めたるものは是を採用した。

各府縣に於ける町村並列の順序は大體成績順を以てした。

表彰優良希望町村一覽表

△太文字のものは特別優良町村として優勝旗贈呈

[illegible]

(四國地方出席者及關係者)

神都
大會
出席者數一覽

北 東

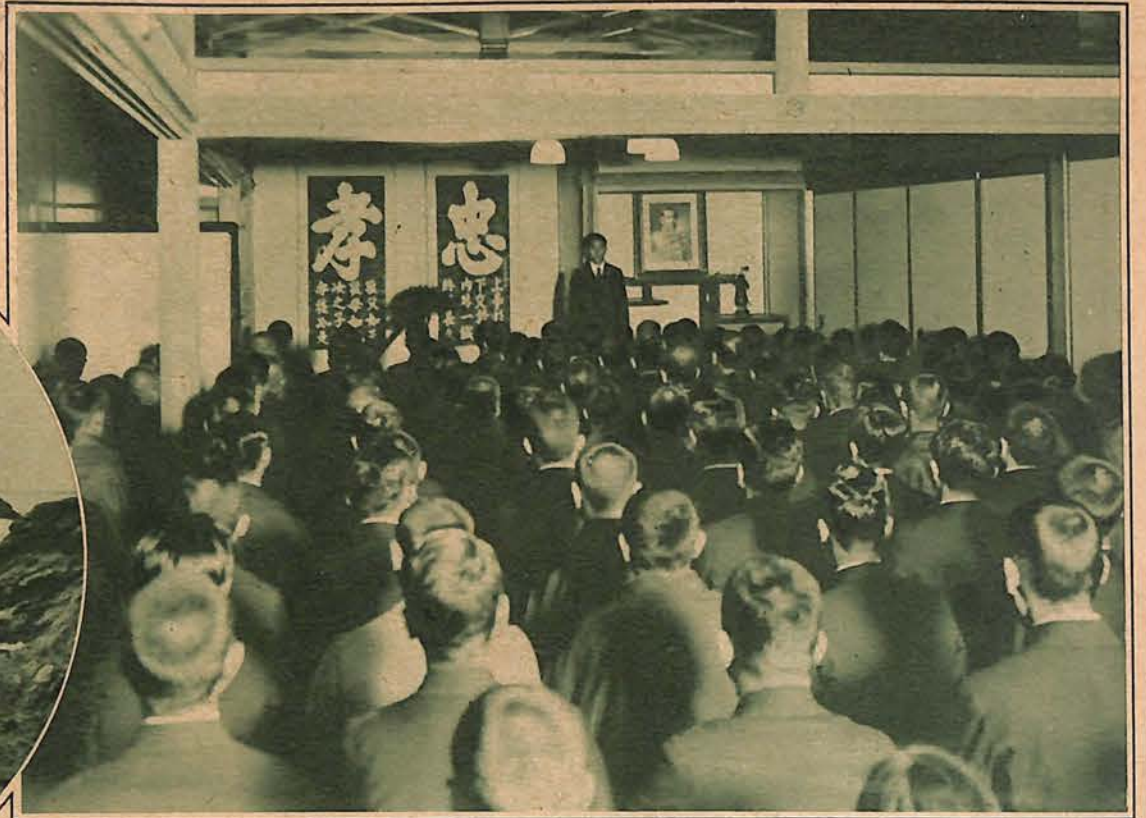
山宮秋岩青北樺
海

形城田手森道太

四三〇二一四三

||三|二五一

四三三二九九四



A sepia-toned photograph of a coastal scene. In the foreground, there are dark, dense bushes. To the left, a small building with a light-colored roof is visible. The middle ground shows a calm body of water with a small, rocky island in the center. In the background, a range of mountains is visible under a hazy sky. A tall, thin structure, possibly a lighthouse or tower, stands on the right side of the water.



てつ渡を海の勢伊きだま朝ぬらやけ明だまは夜
、一てつま集に前庭すせもと物を風寒る來き吹
。快爽に頓身心、操體の三、二

「十有一年の努力遂に此の礎石を作る」とは師の述懐此の礎石を作る助力者として繁劇な事務を黙々として裁き行く本社の社員達、神都の大會に参加して日頃の努力が如何に大いなる結果として現れたかを如實に見て更に大なる覺悟を定む。今や大會を滞りなく終えて東京へ歸る汽車中、さながら凱旋兵士の如く輝ける晴晴した顔を並べた光景。



(せ影撮に別縣府は又別方地)
(す示を部一の其、のもる)

者 席 出 會 總 盟 聯 本 日 全

(宮崎縣聯盟出席者及關係者)



(岡山縣聯盟出席者及關係者)



(滿鮮方面出席者及關係者)



(廣島縣聯盟出席者及關係者)



(北海道、樺太、朝鮮、臺灣、滿洲の出席者及其の關係者)



(四國地方出席者及關係者)



事行の
洗床起時五朝は
、誦朗威權(想默
に氣の肅嚴しな



雨の鳥羽港
これも神都希望館から程遠からず細雨に煙る
岬の山々、漁船の群れヒタ／＼と岸に寄せる
小波—平和のシンボルである。

分十



合	他其鮮滿	州 九	國 四 國 中	畿 近	部 中	東 關	北 東	地方別 府縣別	神都 大會 出席者數一覽
計	社南朝臺 員滿 其 他洲鮮灣	鹿宮大熊長佐福 兒 島崎分本崎賀岡	高愛香德島鳥山廣岡 計 知媛川島根取口鳥山	兵大京和奈三滋 計 庫阪都山良重賀	福石富新岐長山愛靜 計 井川山湯阜野梨知岡	東神埼千茨群栃 計 奈 京川玉葉城馬木	福山宮秋岩青北樺 計 鳥形城田手森道太	男	
九六一	四三一 一七一 一二一	九五 三八四 一三九 七	一一 四八八 八六八 三三四 七二	三六 五八四 三二二 〇〇〇 四五八 一二	二一 一四九 一六〇 八一八	九三 一六三 二〇四 八	三七 〇四三 〇二一 四三	女	
三五六	六六 六六 一一一	四二 一一一 四二五 〇	三五 五二三 三七 五〇	一〇 三六九 五八五 五九	七六 三八五 一〇五 二一二	二二 八一五 一二三 二	二一 一一一 三二五 一	合計	
一三七	一〇 七三 一一二	一三七 三八五 五五四 七	一四 九三〇 一九八 〇四二	四六 三五六 九六九 六九三	二九 二二二 一五三 一〇一 二二四 一六五 〇二〇	二四 一七八 三二七 〇	四九 一四三 三三三 九四		

平 穩 村

(長野縣下高井郡)

信州に名高い湯田中、安代、上林等の温泉地を包含した村である。四季郡鄙人士の來往絶えず、従つて幾多の弊風に襲はれる、こと避け難き中にあつて夙に希望社運動の精神を取り入れて青年男女が自發的に堅實眞面目なる氣風を養成したるを以て全村修養氣分漲り青年は勤勞を向ひてよく働き、生活改善を叫び、生産事業には共同組織を以て當り、事毎に實績を擧げて居る、例えば養鶏組合、養蠶組合、蔬菜俱樂部、稻作俱樂部、栽桑俱樂部等悉く社友中心にて不斷の研究を續けて居るのである。

戸數 九百戸中 社友五百五十名

(内修身社友百名)

村當局、學校職員も社友にて行動を共にす。



市嘉藤佐長校學小、衛兵市岩黒長會年青目人二りよ右列前
。るあて友社堅中の村本は他其、氏諸の松雄玉兒主館本山

修天早で合聯が體園種各に庭校學小日一月一
(る居てい輝に譽榮が旗彰表) 會養



(郡賀名縣重三)村山古

學校役場協力一體となつて希望社運動を取り入れ從來形式的事業本位であつた所謂「模範村」が修養本位にと轉化して來た、接する青年男女學校生徒のすべてが眞剣で正直で、よく訓練され統制されて居る。神前早天修養會及相互修養會には學校職員を中心として村吏員が指導者として村全體若くは各字單位の集會に交代で出張する。郡聯盟大會費や其の他社友の會合に必要な經費なども村が負擔して呉れ、村内有力者の家は残らず「希望の家」である。

平 群 村 (奈良縣生駒郡)

社友數五百餘名村當局學校職員全部參加全村を擧げて善化運動に精進して居る、早天修養會は青年訓練所及補習學校の正科となつて居る位他は推して知ることが出來よう數年前は學校問題から村内が二派に分れ事毎に紛争の絶えなかつた村であるが本運動を取り入れてからは各團體何れも常態に復し村當局學校當局と協力一致すべての事に當つて居る、難村のあとを此の運動を中心として此處まで引き上げた村長校長の努力を多とし其の達見に敬意を表するものである。



森長村端左列二第、一五四植長校東群平 端右列前
大郡神) 氏諸の治勝山尾長校西群平方後最、治露井
(際の席出會)

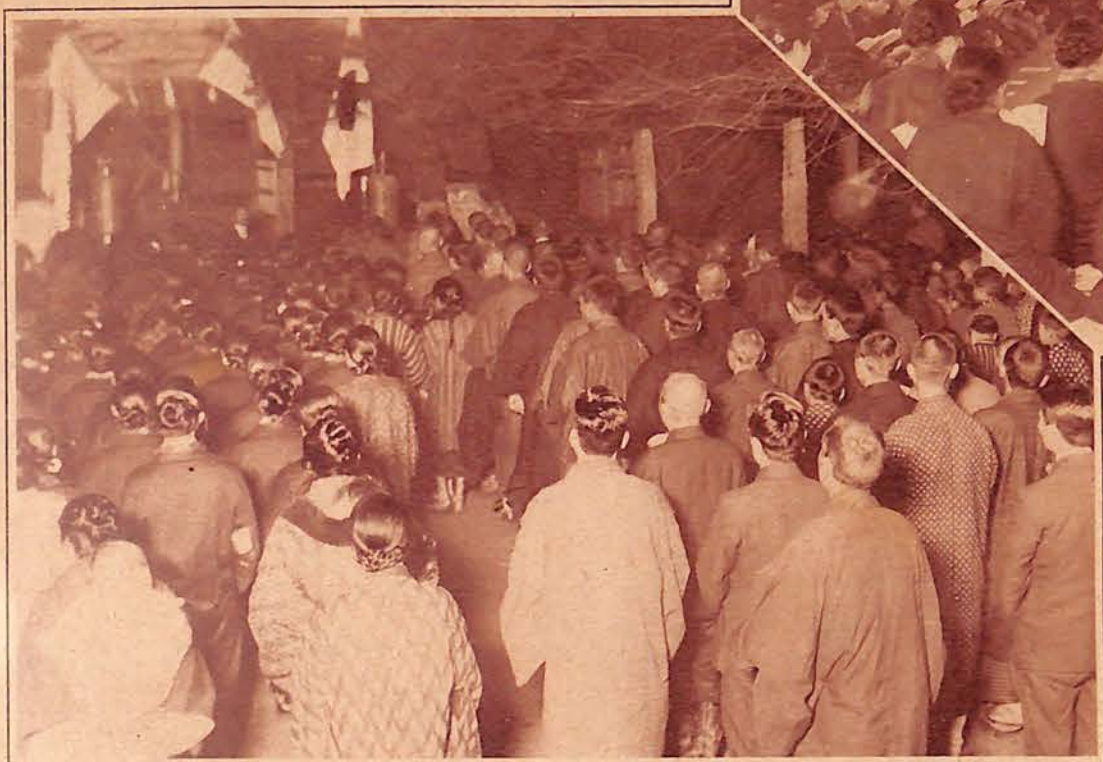
安川村では早天修養會を村役場の公文を以て一般に通知し、毎月三日は村長以下三百餘名が小學校庭に集合し、隊伍肅々

(郡倉朝縣岡福)村川安

會養修互相てつ飾を旗彰表(上)

會養修天早(下)

(加參も達んさみかおたう負を供子)



安川村では早天修養會を村役場の公文を以て一般に通知し、毎月三日は村長以下三百餘名が小學校庭に集合し、隊伍肅々神社に行進する、村内に一歩足を踏み入れるものは、何となく美しい気分が漲つて居ることを感ずるであらう。役場にも學校にも各家庭にも希望社精神が充滿して居るからだ。まるで希望社經營の村の様な觀がある。納税、産業、教育等の事一として實績の擧げぬものはない。村民は安川村に生れたことを無上の誇りとし悦びとして居る。

鹿島町

(佐賀縣 藤津郡)

森 田 判 助 氏 (端左列二第)
向 井 熊 次 氏 (端左列後最)
高 添 縣 聯 盟 主 事 (端右同)
九 州 縣 盟 主 事 西 原 茂 郎 氏 (央中列前)



役場、學校が全部社友であるのみならず、郵便局、銀行、女學校、大商店、會社等、町内の主要部分は悉く希望化され、社友數七百五十餘、終身社友も約五十名、敬神崇祖の念に厚く町風次第に堅實に赴き、郷黨の模範として縣下は言うも更なり、他縣にも其の名、響くに至る。本町には縣聯盟の總務森田判助氏あり、また本社事務講師向井熊次氏の郷地にして兩氏多年の努力が此の礎を築かれたものである。



熊本縣上益城郡河原村

村役場、學校、青年團等の首腦部何れも終身社友なるが故に、本社の事業は率先村内に吸引して、村治の上に融合して着々實績を擧げつゝあり、將來更に大なる期待を以て迎へらる。

表彰旗の右 村 長 矢 野 數 馬 氏
其の右 婦人會長 矢 野 イ ッ 氏
表彰旗の左 學 校 長 橋 本 壽 格 氏
其の左 助 役 緒 方 壽 市 氏

社友中心にて不斷の研究を續けて居るのである。

村當局、學校職員も社友にて行動を共にす。

(内修身社友百名)

修天早で合

體團種



れ事毎に紛争の絶えなかつた村であるが本運動を取り入れてからは各團體何れも常態に復し村當局學校當局と協力一致すべての事に當つて居る、難村のあとを此の運動を中心として此處まで引き上げた村長校長の努力を多とし其の達見に敬意を表するものである。

を業大的際國・的家國
の社望希つ立てう負背
容陣全るた々堂

男子社員



女子社員

(所定の制服着用)



神都希望館特派社員
近畿七府縣の事務
と宿泊、其の他一
切の事に従う

員部送輸



勤勞女學校

本科生徒

徒生及員職校學刷印本日
(者身出校學の此は分部大の員職)



彼に此のゆとりあり

毎月四種類の雑誌を一人で書き他に寄稿する。
あらゆる多方面の事を切り廻す、七百名の家族の
お世話、地方の講演行脚、よくも続くもの哉、定
めし其の日々が忙しさの連続にて休む暇も無かる
べしと想像さる。然るに彼

は實によく眠り、よく
遊び、ユーモアを
飛ばす餘裕を
持つ



晝食後の日光浴

中學時代の彼(後藤静香)

豊後の山間——竹田中學校在學時代同僚と共に寫した
もの(左上) 弊衣破帽、引き緊った顔、眉宇に閃く理
智の輝き、彼果して何を考へて居たか。



勤勞女學校

本科生徒

製本科生徒



の
容陣



地鎮祭 (昭和二年一月二十七日)



基礎工事

上棟式

(昭和四年
二月十七日)



上棟式を辭する藤社主



露天講堂で御大典の
萬歳奉唱

(昭和三年十一月十日)

形だけ出来た講堂内で

十一周年記念式

(昭和四年六月一日)



大希望館
の回顧
工事中

聯舊

一同先ず講堂に落ちついて後藤社

— 日の轉移へ館新 —

越引たれわ行て以を肅嚴と制統と序秩 —

日るす轉移が城本の萬百志同へ館望希大るれ成裝新は日のこ日五十二月二十年四和昭
序秩にこそ、のもとしに異を趣にい大はと越引の世す來を雜混大然雜然騒。たつあで
。る送見を之てし表を意敬とは石流もれ何々人の道沿りあ味肅嚴りあ制統りあ



本日全、旗のし成落館望希大祝、旗社
と々肅に頭先を隊樂音、旗盟聯
。へ館新りよ館舊



一同先ず講堂に落ちついて後藤社
主から一場のお話あり、館内を一
覽する。

白布に覆われたるものは宮中
より拜領の御物の數々、これ
を奉持するは古參の社員達。

(和服姿は
梨木元高等女官)



搬運の器什他共箱ドーカ



前直るま納へ館新に將が萬百志同
(す示を部一の箱ドーカ)



事

主社藤



の回顧

大希望館誌上參觀

先ず受付へ

館の左手昇降口を入ると
右手に此の受付がある。
こゝには後藤先生の令息
源さん(右)と、令嬢須
眞子さん(受話器を手に
當てゝ通話中の人)とが
他の係と同じく應接に忙
殺して居る。

地

階

地階に降り

下足室で上履に替え
て順に廻る。女子社
員宿直室、倉庫、電氣
室、暖房汽罐室等をの
ぞいて

發送室に至る

主として四誌の取
經發送の荷造りを
する所(寫眞)



浴室

男女兩室がある。
綺麗な瀬戸張浴
槽、周壁も床も
すべて感じがよ
い、社員が一日
の働きを醫し地
方からの來泊者
を慰めるには充
分である。



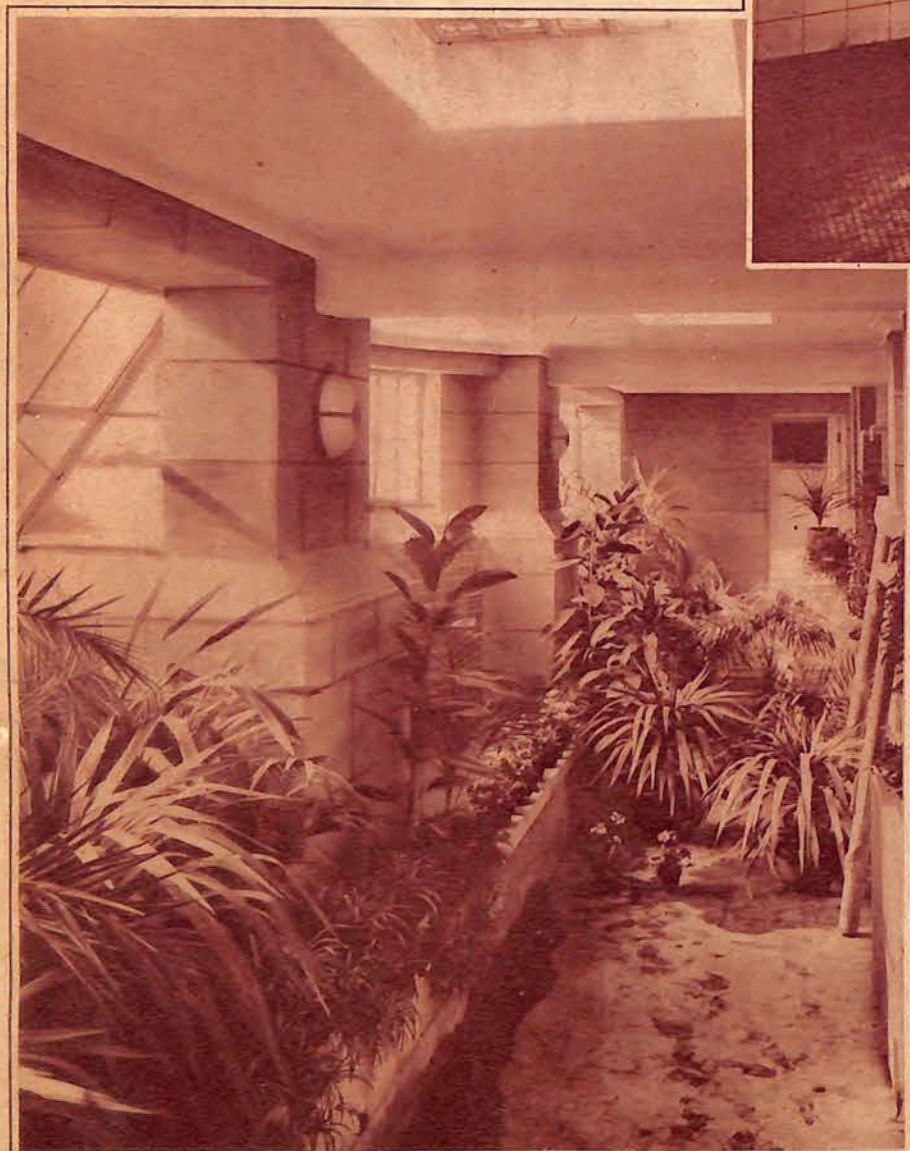
温室

南側に細長く光
線を採り入れて
暖房装置を施し
たるもの。こゝ
には四時珍花珍
果が人々の目を
樂ませるであろ
う。
寫眞はまだ開館
早々の際とて内
容が整つて居な
い。



調理室

幾百人の大家族、
大會食の調理を
引き受ける所。
専任係の外に女
子社員が交代で
炊事をやる。
無論玄米常食の
簡易食であるが
常に栄養に注意
し新鮮味を失わ
ぬ様にまた日本
人の食事法改善
に研究を重ねて
居る。
こゝで調理され
たものはリフト
で階上の配膳室
へ昇る。



第

壹

階

大

和ぎと團樂の大ホール、卓上に所謂山海の珍味は無けれ共互に語り共に歡び笑
聲天井にこだまして地上の樂園を現出する。内部の舗装も中々なく、大或は門
ゆとりなく、うるおい無き所に人
間的大事業は遂行されず。





第

壹

階

大 食 堂

和ぎと團欒の大ホール、卓上に所謂山海の珍味は無けれ共互に語り共に歡び笑聲天井にこだまして地上の樂園を現出する。内部の舗装も申分なし、人或は謂わん贅を盡したりと。然り此の所謂「贅」の中に國家を動かす底力が養われる。ゆとりなく、うるおい無き所に人間の大事業は遂行されず。

(寫眞)は昭和四年十二月廿七日夜開かれた社員の歳末感謝會である。過去一年そこに過もあり、無理もあり、功罪も區々、然れども「すべてよし」一切が感謝なりとして神の恩寵を想う。



印刷室

本社の印刷部は別にあるがこゝは臨時應急の印刷を簡易高級機械を以て迅速に出来す爲めに設備されてある。

逓信部

幾十萬の通信、圖書雜誌の發送に當り郵便局へ差廻す前、必ず此處の手を経る、日方を量つて郵税を調べたり分類したり窓外の自動車に積み込んだり随分忙しい。



階

主として四誌の取
纏發送の荷造りを
する所(寫眞)



果て人々の目を
樂ませるである
う。
早々の際とて内
容が整つて居な
い。



第 貳 階

同志百萬の本城

始めて本社を訪れる人の驚異の最たるものは此の事務室である。同志百萬の人々が此の立ち並ぶカード箱に丁寧に納められて居る（但近畿約十五萬社友の事務は神都新望館にあり）社員の眞剣な執務振りを見て下さい



庶務部（左）と
出版部（右）

應援部

事務を臨時に應援する所である社員見習の人、印刷學校や女學校の生徒、帝都學生、軍人等が絶えず來社しては手傳つて呉れる

て居る（但近畿約十五萬社友の
事務は神都新望館にあり）社員
の眞剣な執務振りを見て下さい



貴賓室

名からして莊重味がある事實本館としては一番氣品ある
部屋である
平素後藤社主の應接室として、全國の各階級の人々を送
迎して居る



總務室

此處で大部分の原稿が出来、此處で諸事業の計畫が練ら
れる。希望社の事業は既に國家的、國際的範圍のものが
多い。此室から巻き起される波の響きは可なり大きい
ものである。



來賓室

本社見學に地方から出て來られる方、本社員に面會を求むる方々等
の休憩談話室である、いつでも満員



編輯室

此の運動の機關新聞
「希望の日本」の
編輯室



會計部

年百數十萬圓の大世帯を切り廻す會計、
營利事業ならぬ教化團體、金に縁が薄い
だけに當事者の苦心も並々ではない



第

参

階

大講堂

入つたゞけで襟を正す嚴肅
の氣滿つる裝置は設計者の
苦心の存する所、階上、階
下兩席で定員八百、補充席
を設ければ千人を超えて収
容される
寫眞は一月一日行われた本
館落成式

即賣部

著書の即賣は階下の受付でや
るが此處は主として日用品を取扱
つて居る。製造元から直接品物を引き
取るから市價の幾割安で廉賣される



階

四

第

大英斷

大希望館は國民の家

帝都に於ける同志の家

一泊壹圓均一斷行

▽食事共（一食、二食、三食御隨意）

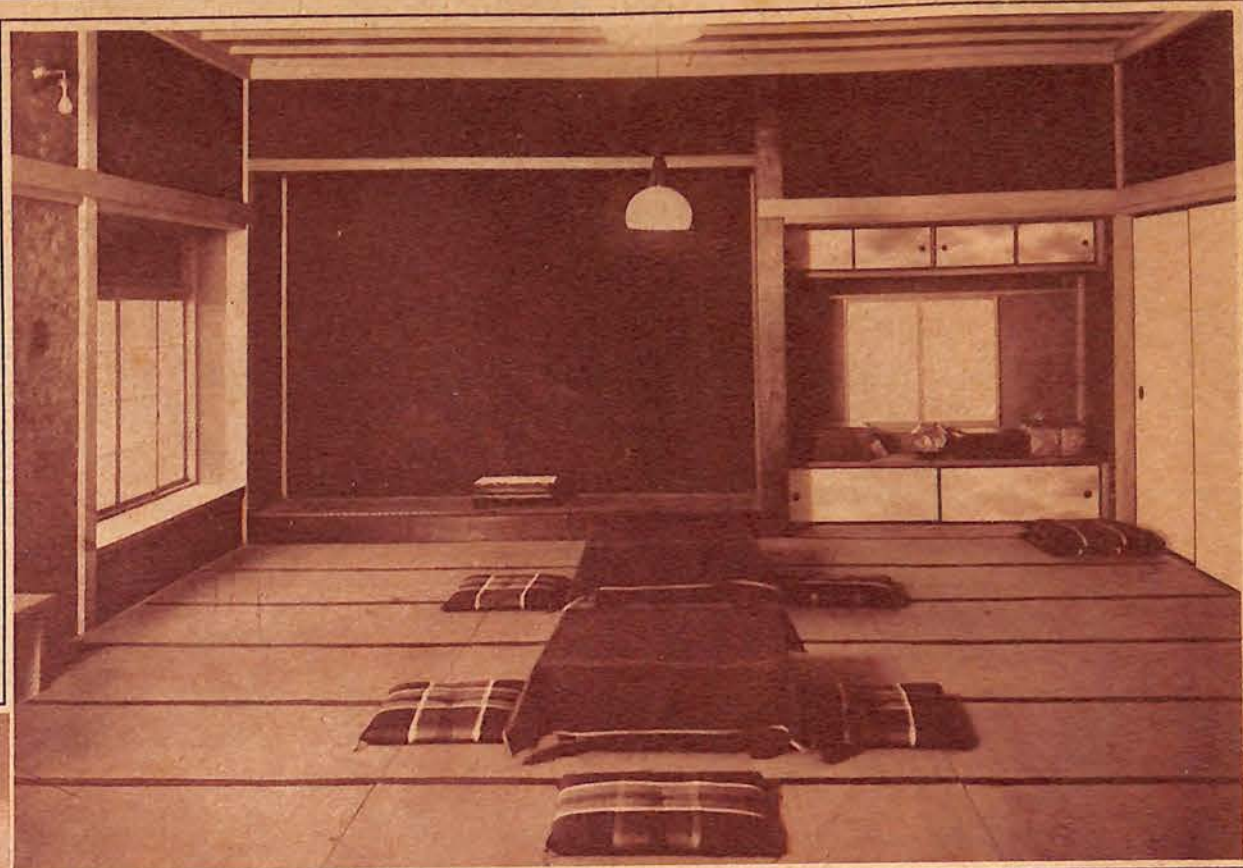
▽團體個人凡て同様なり

▽社友又は社友の紹介による人々に限る

▽小學兒童は御遠慮を乞う

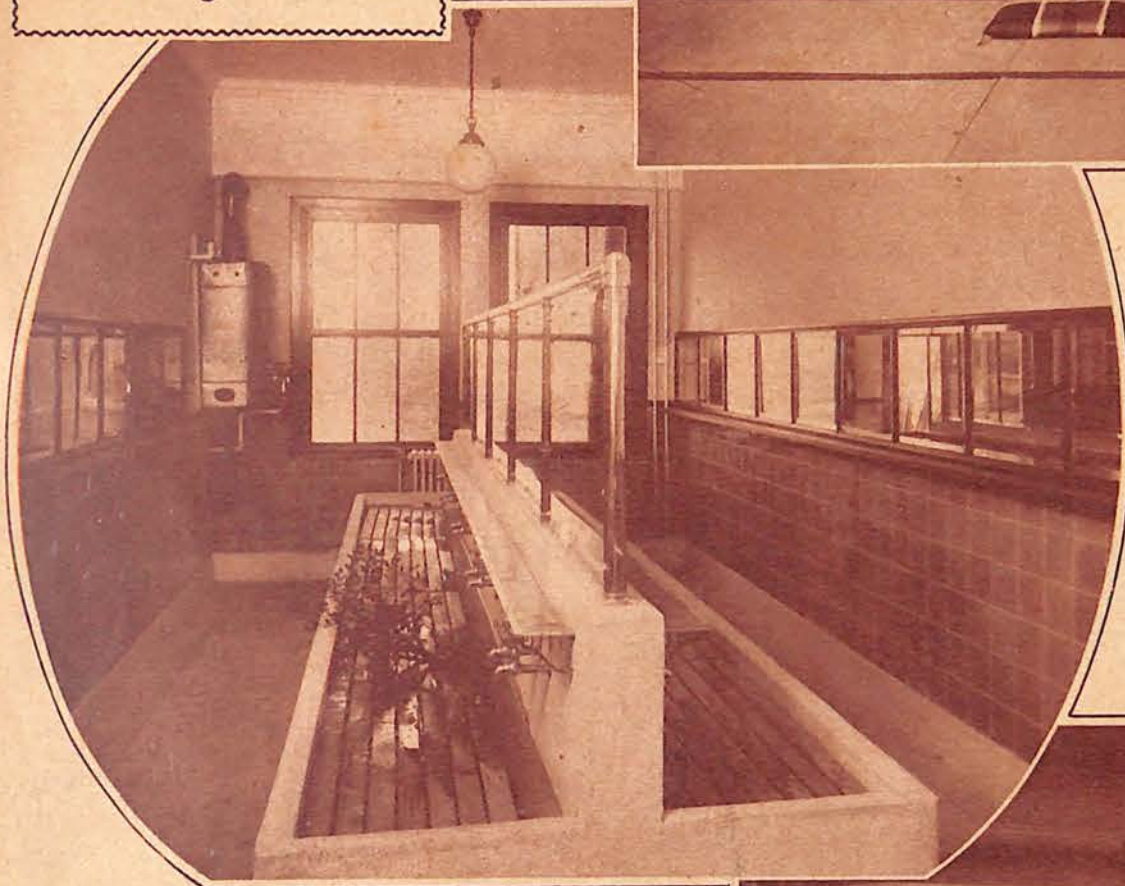
客室（宿泊に當てる）

堂々たる洋館内に清楚な此の純日本間があるのには誰しも驚く

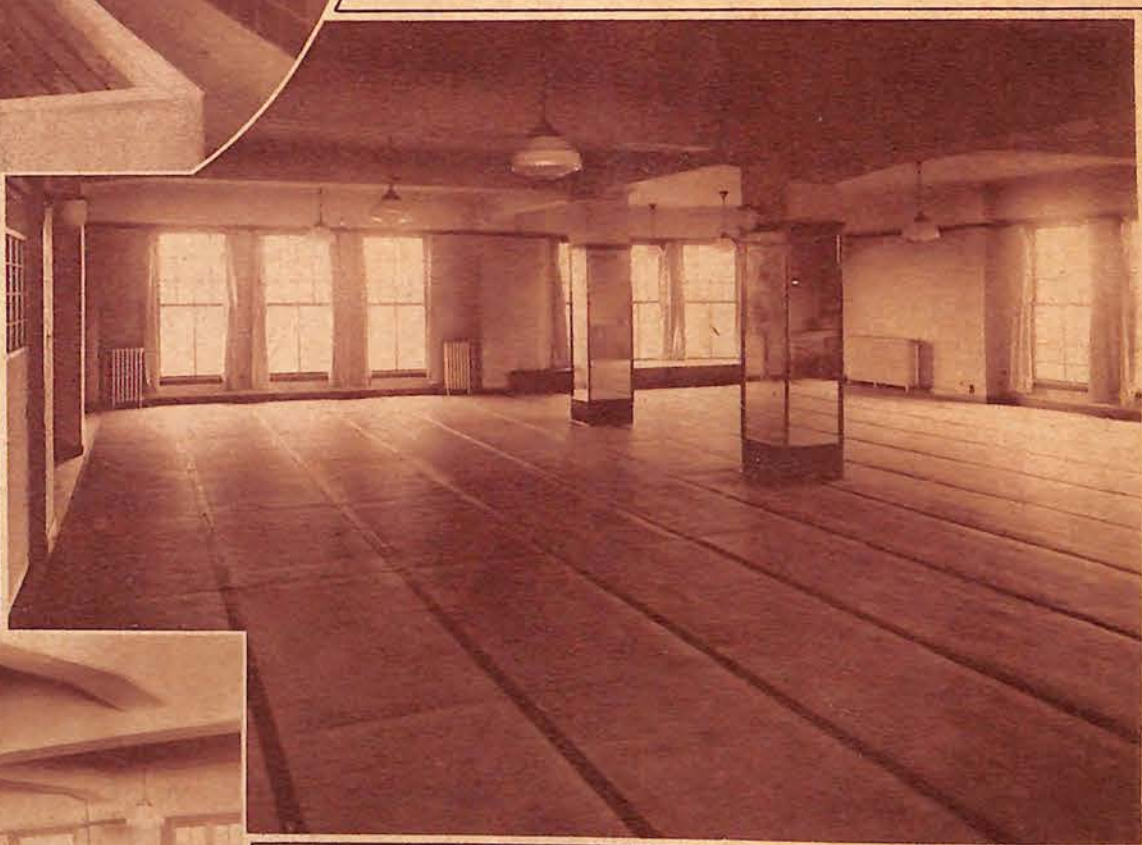


洗面室

中央と左右兩壁に明鏡を取付け専ら清潔を旨としたり



右集会室を利用して本社關係の男女學生の集い



室會集

柱角の央中き敷を疊百約るあで間廣大の式本日純
會養修互相るす座圍し白面はるたけ付取を鏡に
るなもと室泊宿の體圍れさ用に等會習講大

上

屋

新宿方面展望

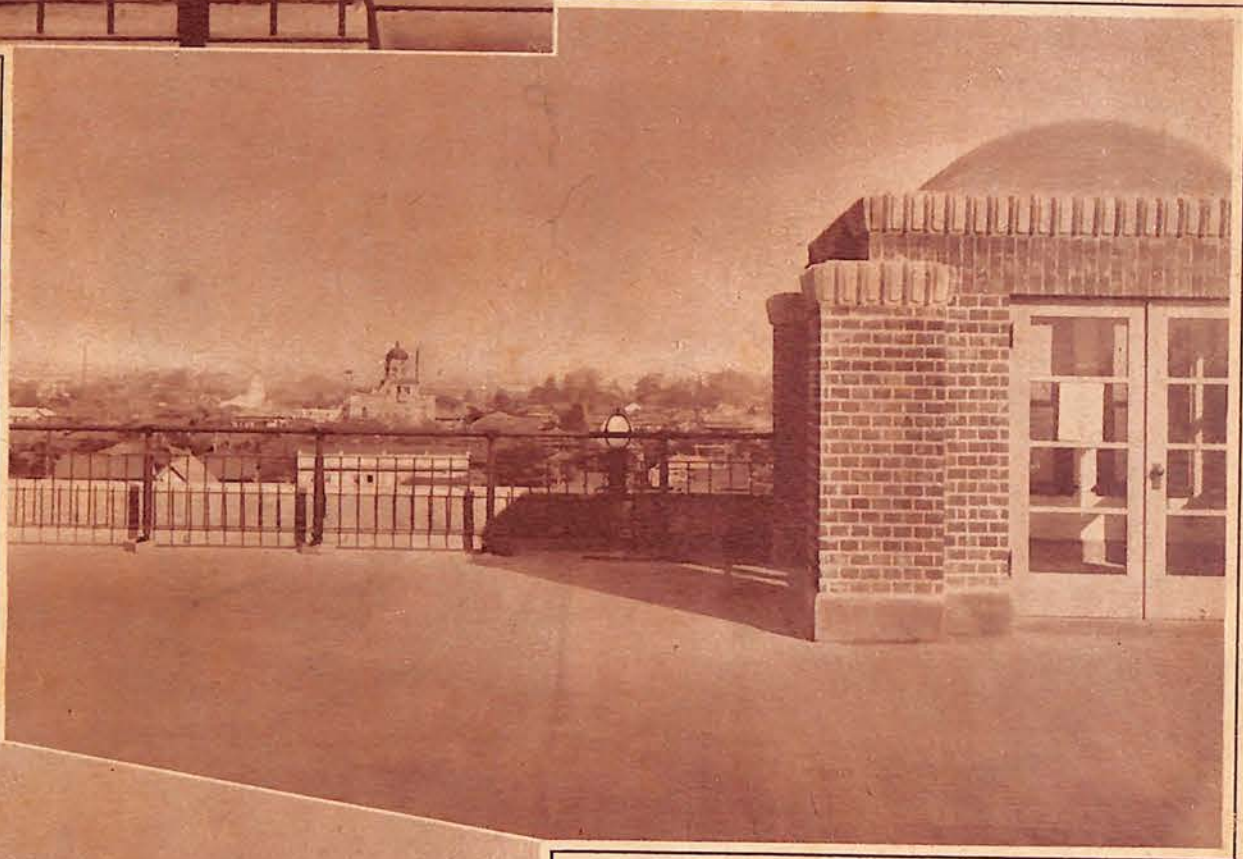
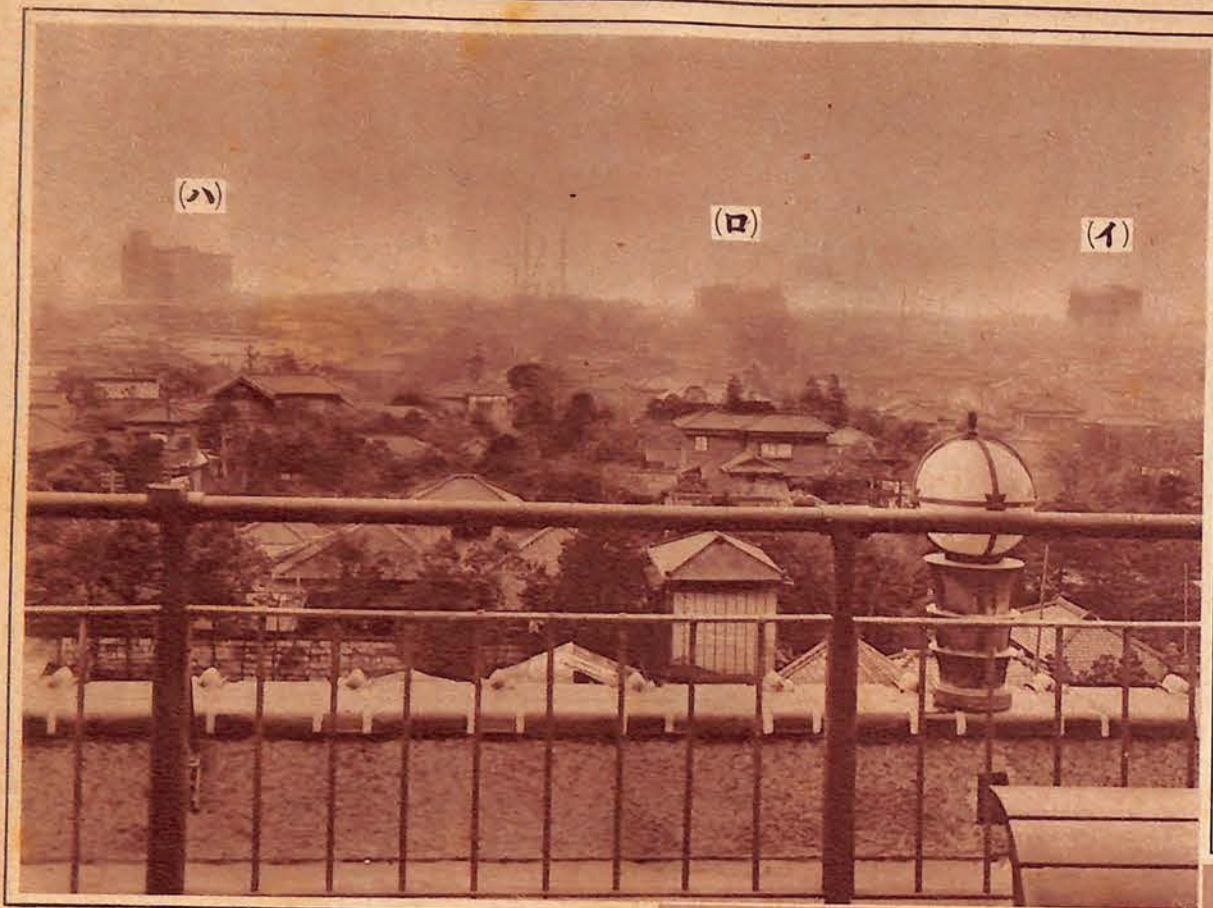
(ハ)(ロ)(イ)

新宿三越
武蔵野館
ほてい屋呉服店

呼ばば應えん
とす
晴れたる日に
は富士が此の
右手に秀麗な
姿を現す

む望を屋社舊

舊館(尖塔)が小さく佇立して新館を羨しげに見て居る幾年間此の運動の爲めに無理と思われる程虐使されよく重荷に堪えて来た殊勳の建物である。屋上から常に敬意を表したい。



毎日三回屋上の体操

午前五時三十分

午前九時

午後二時

毎日三回ずつ行う家庭体操、朝は未明清新な空気の中に爽快味溢れ、執務後の体操はまた格別斯くして我等の生活は規律と訓練と統一が保たれる



角一の宿新心中の榮繁都帝

新宿驛が近く、約五分で達せられる、本館へ来られる人々は省線も市電も新宿驛に降車されるが便利である。

新宿は郊外の關門をなすと共に帝都繁榮の新しい中心地となりつゝある、新宿驛は東京驛よりも乗降客が多い、新宿界隈は晝となく夜となく道行く人が織るが如くである。晴れたる夜、露店が開かれる時など押すなぐの出入を見る。

我等の大希望館は府下とは言うものの此の新宿から幾町

をも隔てない、今こそ社屋の近接地は單なる住宅地に過ぎないが此の新宿繁榮の大勢が押し寄せて大厦高樓櫛比の文化都市が實現して行くであらう。

今こそ新宿は東京の所謂「盛り場」と稱せられて多少の低級味を思わせる反面もあろうが將來は日本の吾人類精神文化が此處に發祥し此處を中心として大渦を捲き起す事によつて聖化され美化され物心兩つ乍らの理想都市が生れて行くであらう。

す示を行賣的倒壓
誌雜大九の行發社本

キ ン グ
富 現 雄
講談俱樂部
婦人俱樂部
少年俱樂部
少女俱樂部
幼年俱樂部

社談講會辯雄本日大

術刷印るゆらあ

るけ於に

致合の產生量大と巧精

舍英秀 株式會社

町賀加谷ケ市區込牛市京東

番〇一五一（表代）込牛話電

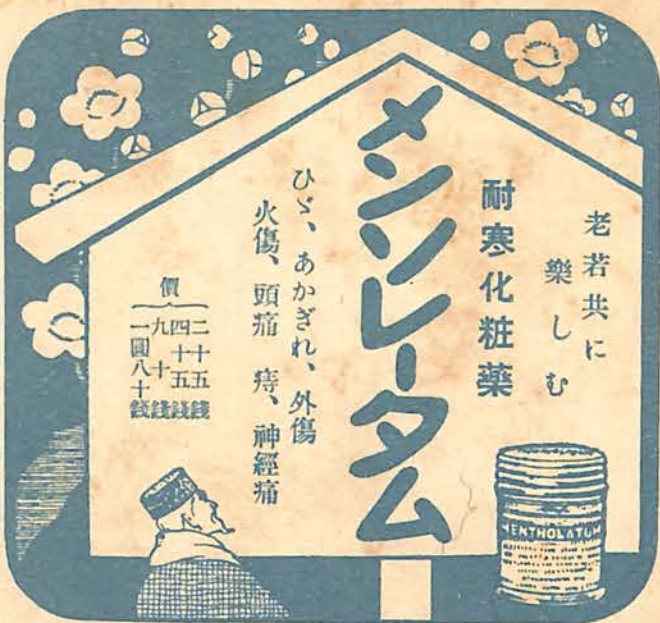
精巧凸版・寫眞版
三色版其の他の美術印刷
活字版の鑄造販賣印刷

サダグ原色グラビア
單色グラビア印刷
ダイレクトプレート法平版
パツシスト法平版

負請事工館望希大

組水清 資社合會

階六ルピ丸京東



用御部刷印社望希

店理代社會式株紙製菱三

店紙洋原柏 株式會社

目丁一町馬傳南區橋京市京東

（區東市阪大）店支阪大

▲就職難の解決▼

◎前途洋々たる鐵道界に身を投じて活躍せんとする諸君は必ず本書に依りて實力を養成せられよう

◎將來官界に身を投じて立身出世を希う諸君に必讀書として本書をお奨めする

◎受驗と就職社々長 吉田先生校閱、松壽堂出版部編集

第一編 昭和三十九年度入學試験問題解説
第二編 昭和三十九年度入學試験問題解説

●好期逸する勿れ躊躇逡巡は一生の損である今直ぐ申込みよ

送金法 一、振替口座へ振替込み願います。東京八電

内容見本 御申込次第 無代進呈

松壽堂出版部

振替口座 東京八電 電話 芝 参 四 四 番

昭和五年二月十五日印刷
昭和五年二月二十日發行

定價五拾錢

發賣所

東京府下西大久保
四五八

希望社出版部
振替東京六四八番

KIBOSHA TAIKWAN

觀大社望希

編輯兼發行人

佐藤 勇 香

印刷人

下倉 國 吉

印刷所

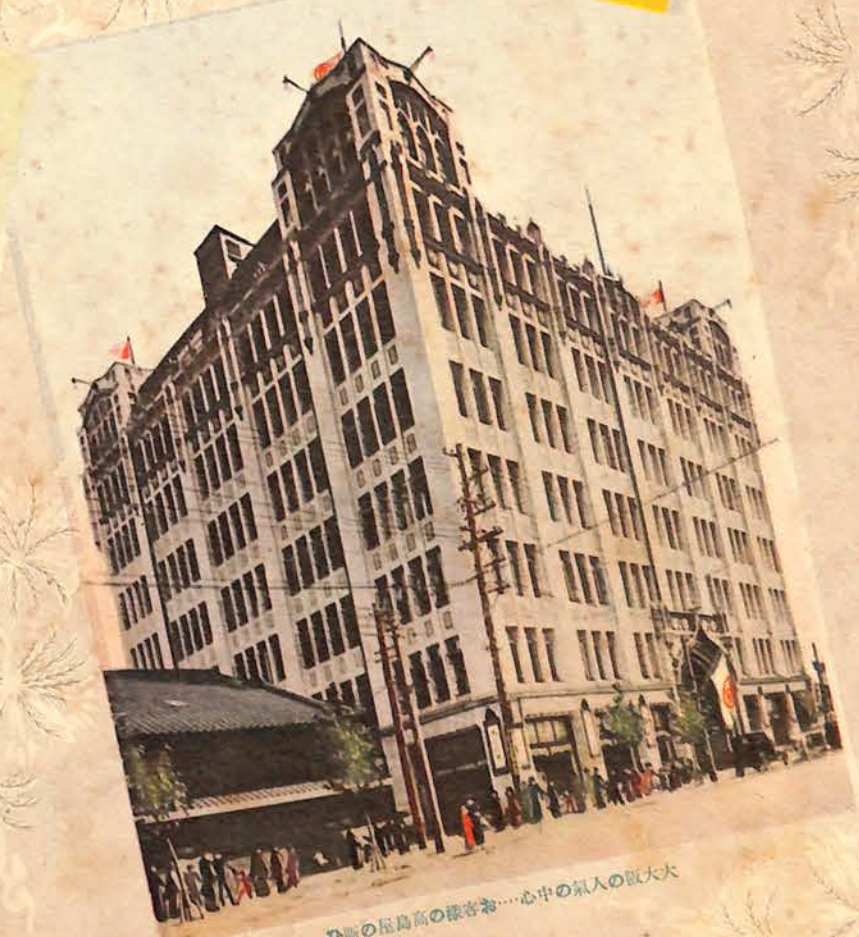
東京府下野方町
上沼袋一五

希望社印刷部

發行所

東京府下西大久保
四五八
希望社全日本聯盟

祝大希望館落成
希望社全日本聯盟結成





後藤静香肖像

昭和四年十二月撮影
彼の事業の準備時代に本論に入る時

